

第12回生乳の需給等に係る情報交換会 説明資料

令和8年3月
農林水産省畜産局牛乳乳製品課

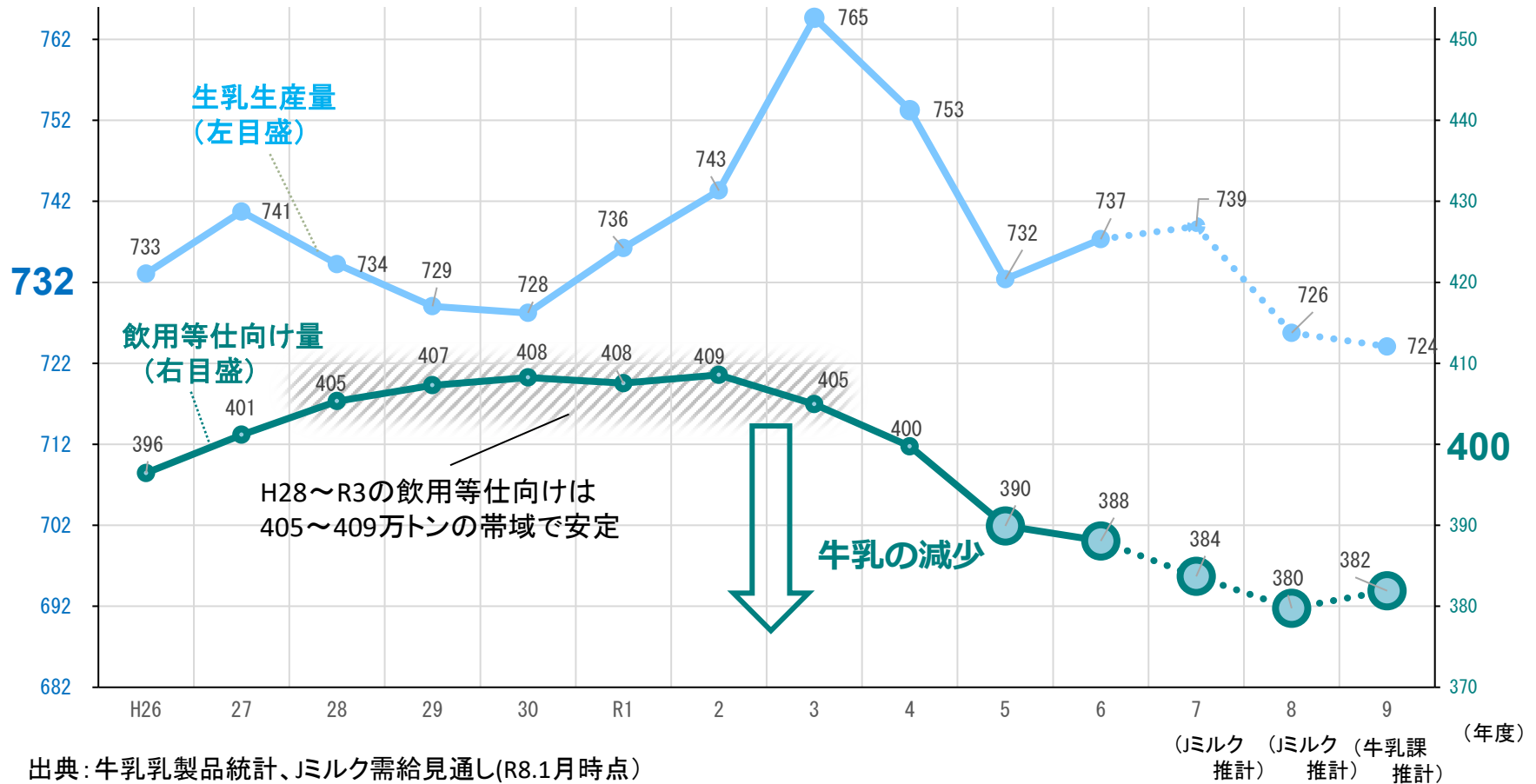
生乳生産量等の見通しについて

生乳生産量及び飲用等仕向けの推移

- 生乳生産量は、R3～4年度を除くと**730～740万トン**で横ばいに推移。
- 牛乳等仕向けは、H28～R3年度が405～409万トンの帯域で安定的に推移していたのに対して、令和7～9年度の見込みは約380万トンと**20～30万トン**の需要が減少。

生乳生産量
(万トン)

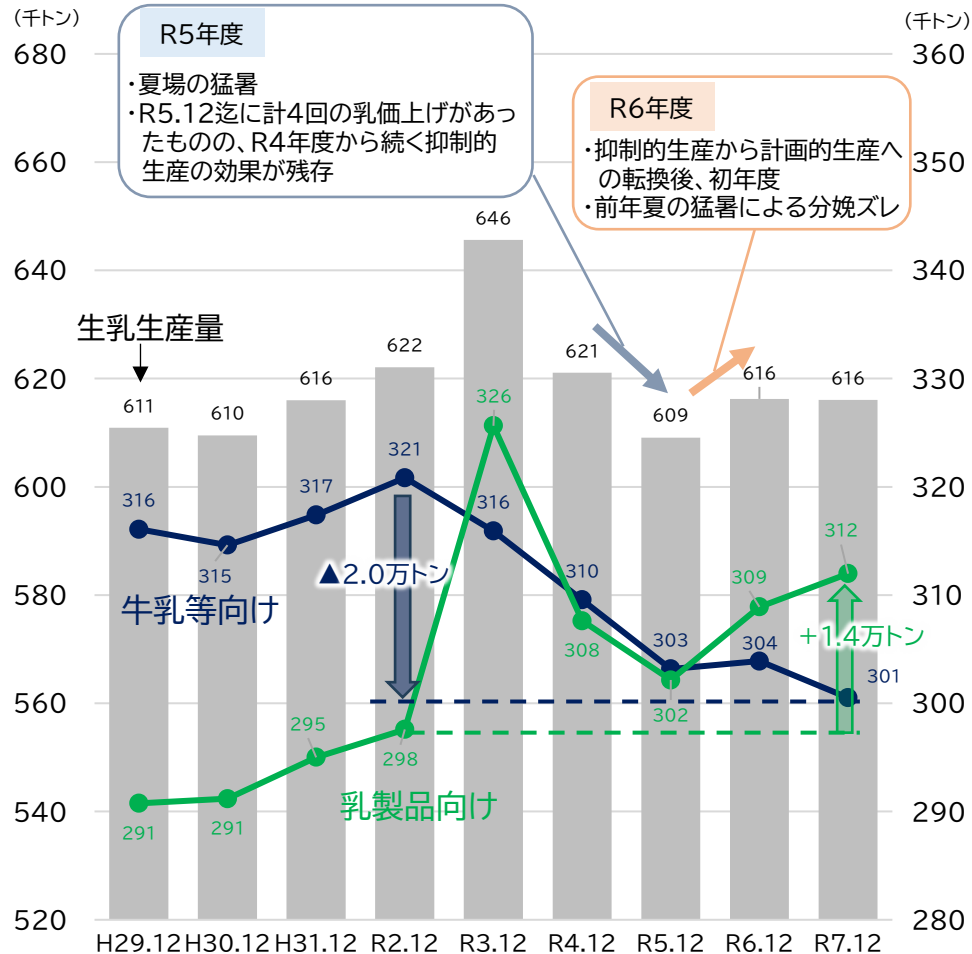
飲用等仕向け量
(万トン)



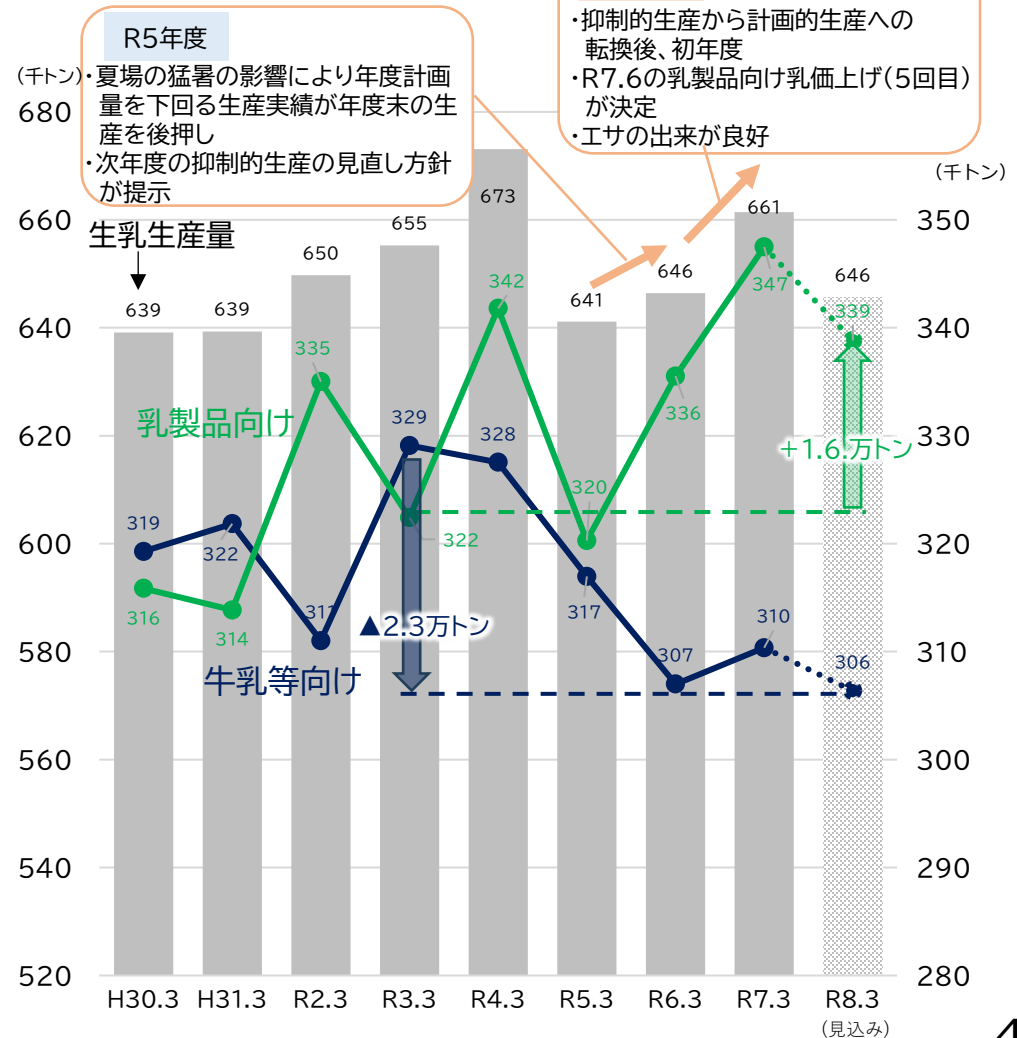
各年12月と3月の生乳生産量と牛乳・乳製品仕向け量

- 直近で飲用仕向けの多かった令和2年度と比べ、不需要期である12月・3月いずれも、牛乳等仕向けの減少や生乳生産量の増加に伴い、乳製品仕向けが増加
- 様々な要因により生産量が増加した過去2年の3月と比べ、今年度は見通しからの大きな変動要素は見当たらないものの、気温等により生産量は変動するため、年度末年度始の生産動向を引き続き注視する必要

■12月(H29年度～R7年度)



■3月(H29年度～R7年度)



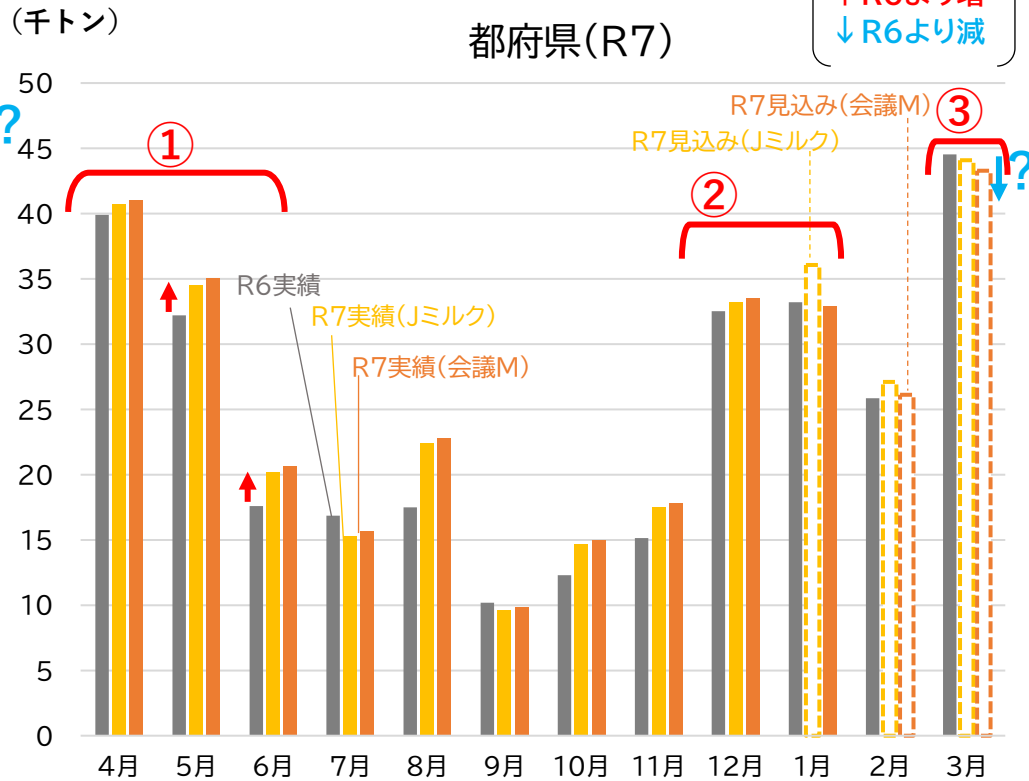
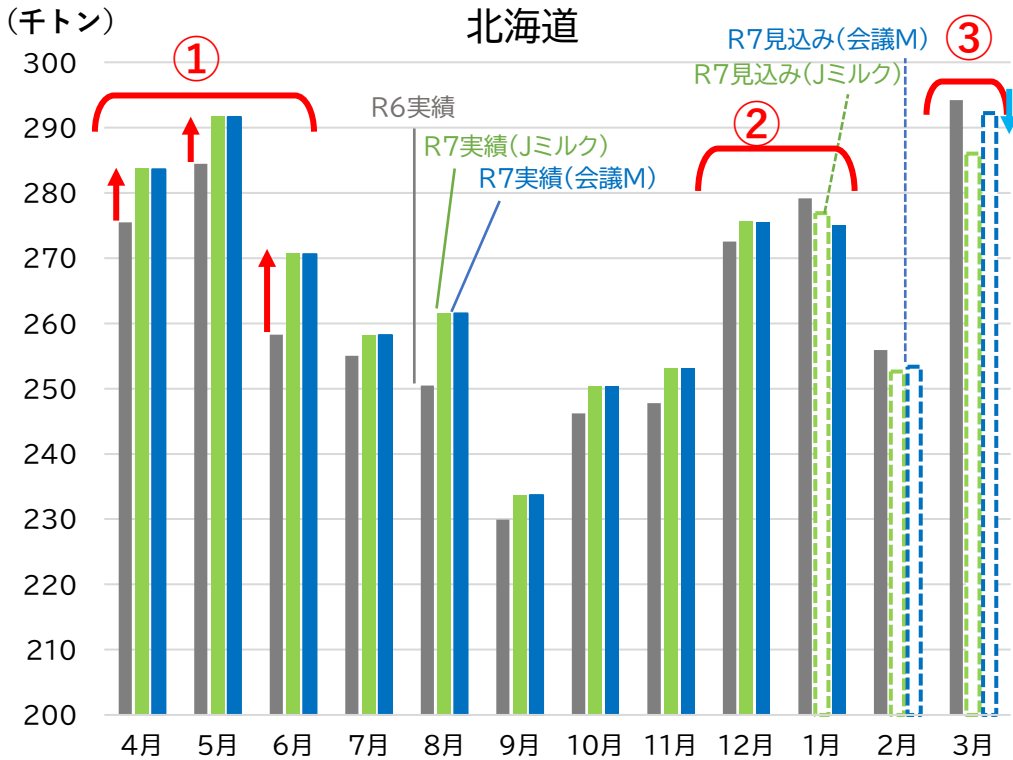
(出典) 牛乳乳製品統計、Jミルク需給見通し

加工仕向け処理量の見通し(令和7年度)

- 令和7年度を振り返ると、特に春は加工ラインがひっ迫。この状況は、通常消費が回復するGW明け以降も続き、6月ごろまで例年のない加工処理状況となった(①)。また、飲用需要減少を背景に、全体的に令和6年度よりも処理量の多い状況が続いた。
- 本年度の年末年始は、飲用需要の減少に伴い、12月に令和6年度よりも加工処理量が上回り、加工キャパを超える懸念もあったが、関係者の事前の準備や最大限の取組により処理された(②)。
- 本年度末(3月)は、処理の厳しかった令和6年度を下回る見込みとなっているが、生乳生産量、飲用等仕向け量の状況を引き続き注視する必要(③)。

○加工向け処理量 (R6年度・R7年度)

↑R6より増
↓R6より減



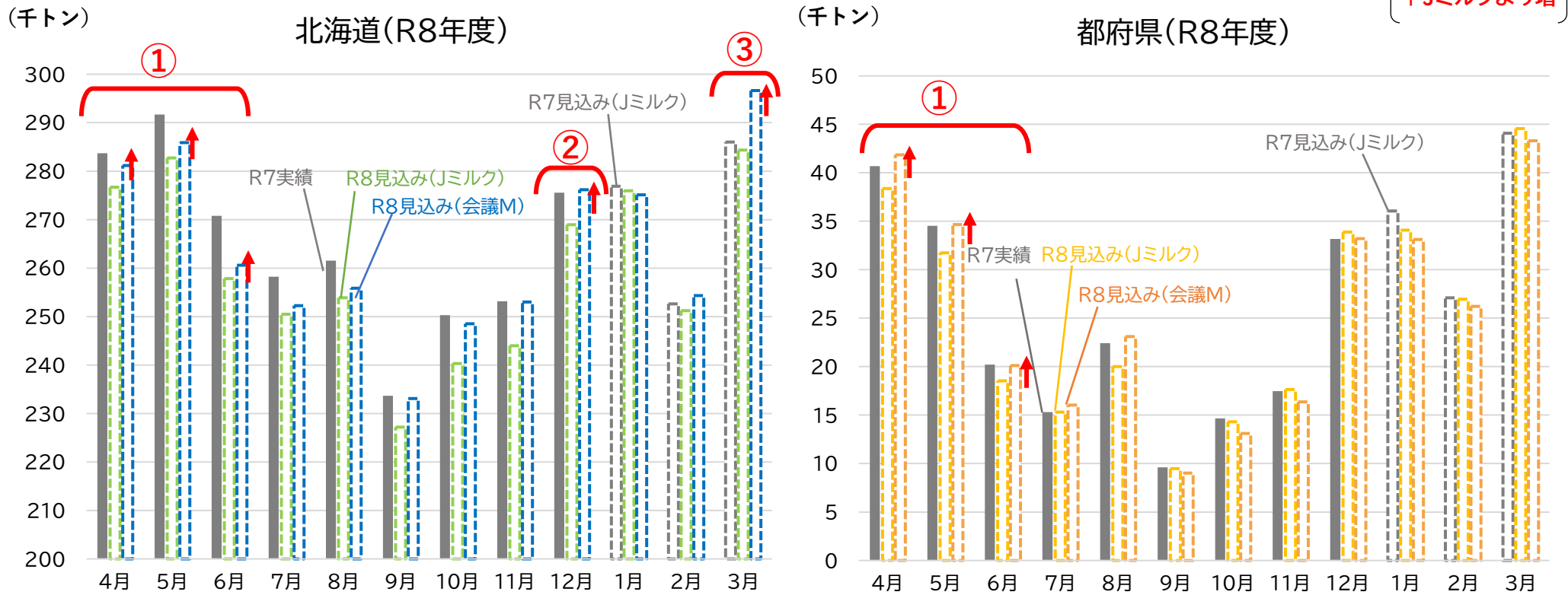
資料：Jミルク需給見通し (R8.1公表)

注：牛乳乳製品統計・Jミルクの加工向け処理量は、認定ベースの加工原料乳向け数量（「自家消費量」「飲用等向けのうちその他向け」は除く）
会議メンバーの加工向け処理量は、生乳取扱量－牛乳等向け販売量により算出

加工仕向け処理量の見通し（令和8年度）

- 令和8年度全体を通じて、生乳生産が令和7年度を下回るとの見立ては、Jミルクも会議メンバーも一致。
- 他方で、飲用需要については、会議メンバーの方がJミルクよりも消極的に見ており、結果、会議メンバーの方が加工量を多く見ている。
- 例えば、令和8年4～6月の加工量では、北海道・都府県ともにJミルクの見通しよりも会議メンバーの見立てが上回っている①。
- また、令和8年12月や3月では、特に北海道の道外移出、つまり都府県内の飲用需要量をJミルクの見通しよりも会議メンバーが消極的に見ている②③。

○加工向け処理量（R7年度・R8年度）



資料：Jミルク需給見直し（R8.1公表）

注：牛乳乳製品統計・Jミルクの加工向け処理量は、認定ベースの加工原料乳向け数量（「自家消費量」「飲用等向けのうちその他向け」は除く）
 会議メンバーの加工向け処理量は、生乳取扱量－牛乳等向け販売量により算出

国産牛乳乳製品の需要拡大・競争力強化対策事業のうち
不需求コア期需給安定緊急対策事業



1. 事業の目的

昨今の乳価値上げ等により飲用需要が減退し、加工仕向けが増加している。また、昨今の働き方改革の進展とともに、年末年始の工場の稼働時間や量販店の開業日への影響が年々拡大している。こうしたことから、学校給食の休止等により飲用需要が減少する年末年始の需給環境は、例年以上に厳しい状況であり、生乳処理に特に強い負荷をかけるおそれがある。このため、この期間に全乳哺育等により生乳の出荷調整に取り組む酪農経営（取組主体）に対して奨励金を交付することにより、生乳需給の安定を図る。

2. 事業の内容

不需求コア期（**12月20日～1月8日**）における生乳の出荷調整に取り組む酪農経営に対してその数量に応じて奨励金（**40円/kg**）を交付する。

3. 事業実施主体

生乳流通事業者

4. 交付対象数量（実績見込み）

911.4トン（昨年度 124.0トン）

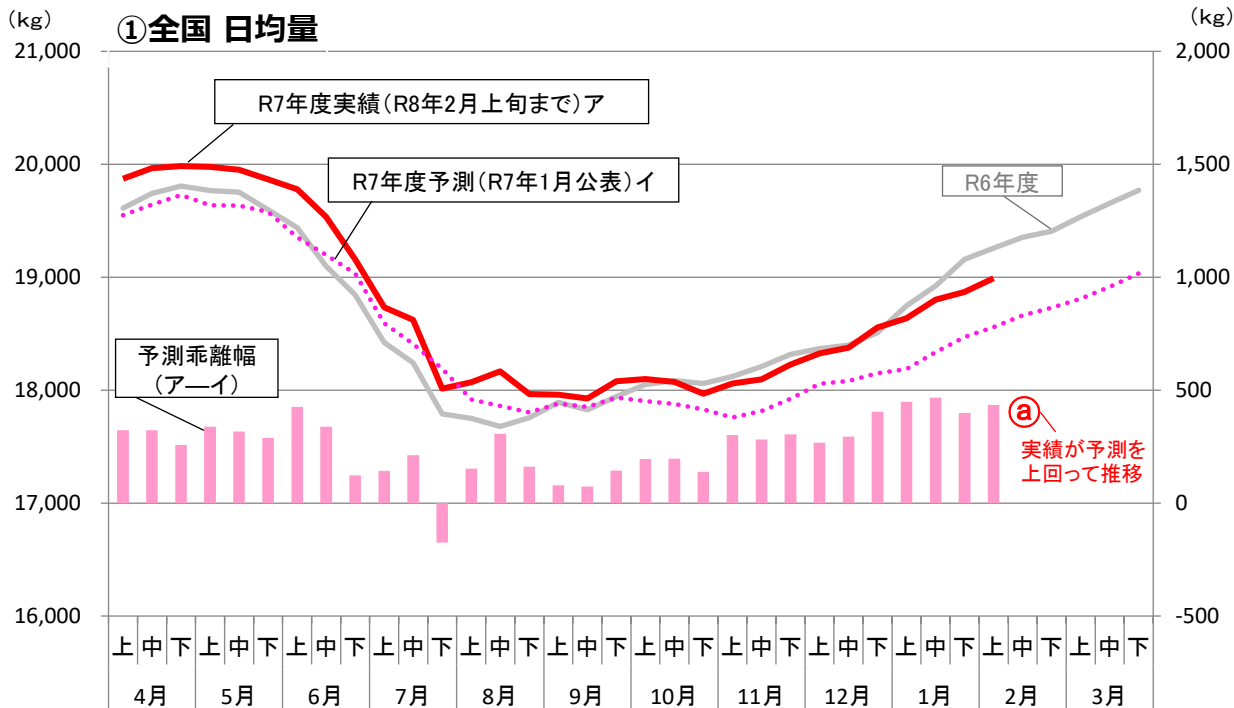
5. 総評

- 事業実施主体、交付対象数量ともに昨年度事業より増加。
- 昨年度よりも事業実施主体が増えたことにより、生産者に対する不需求コア期間の需給調整の必要性及び全乳哺育等の生産段階における需給調整の取組の周知につながったと考える。
- 不需求期対策として、引き続き、事業者ごとに加工処理によらない需給調整を追及するとともに、年間を通じた需給の安定のために、暑熱対策により夏季の種付率を向上させることが重要。

生乳生産の動向

生乳生産の動向<R7年度>

①全国 日均量



生乳生産量は、1頭当たり乳量 × 経産牛頭数の影響を受ける。

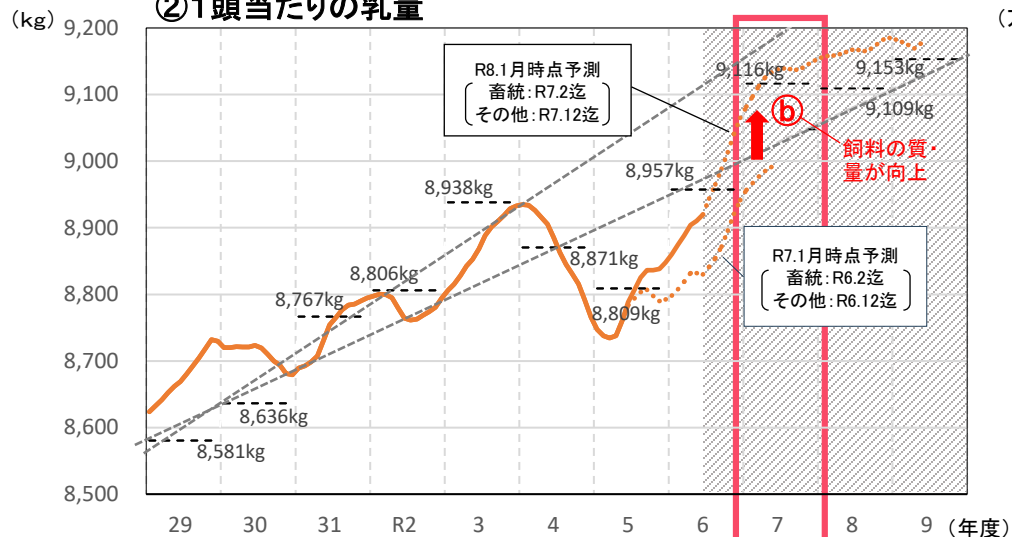
<R7年度の動向の特徴: R7.1時点→R8.1時点>

Ⓐ: R7年度の生乳生産量は予測を上回って推移

⇒ Ⓑ: 1頭当たり乳量が、予測よりも大きな伸び
→ 飼料の質・量が向上したとの声がある。

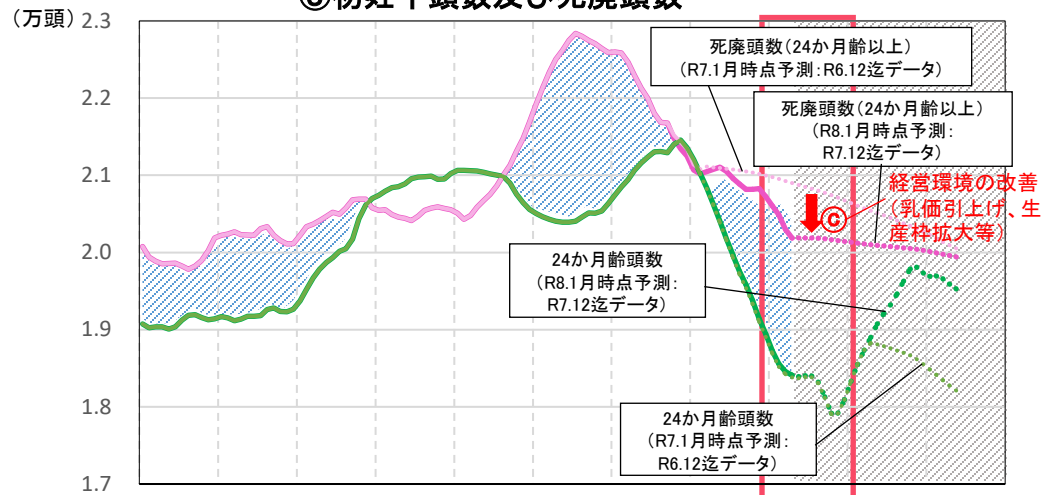
Ⓒ: 経産牛頭数のうち、死廃頭数が予測よりも減少し、
経産牛頭数がそれ程減らなかった。
→ 経営環境の改善(乳価引上げ等)により生産意欲が高まった一方で、初妊牛の頭数減少に伴い更新を控えたとの声がある。

②1頭当たりの乳量



参考: 畜産統計、牛乳乳製品統計
 各月生乳生産量÷各月経産牛頭数の12か月中心化移動累積値
 黒点線は年度の値。グレー点線は増産目標の政策効果最大値及びすう勢値

③初妊牛頭数及び死廃頭数



資料: 牛個体識別全国データベース
 毎月の頭数の12か月中心化移動平均値

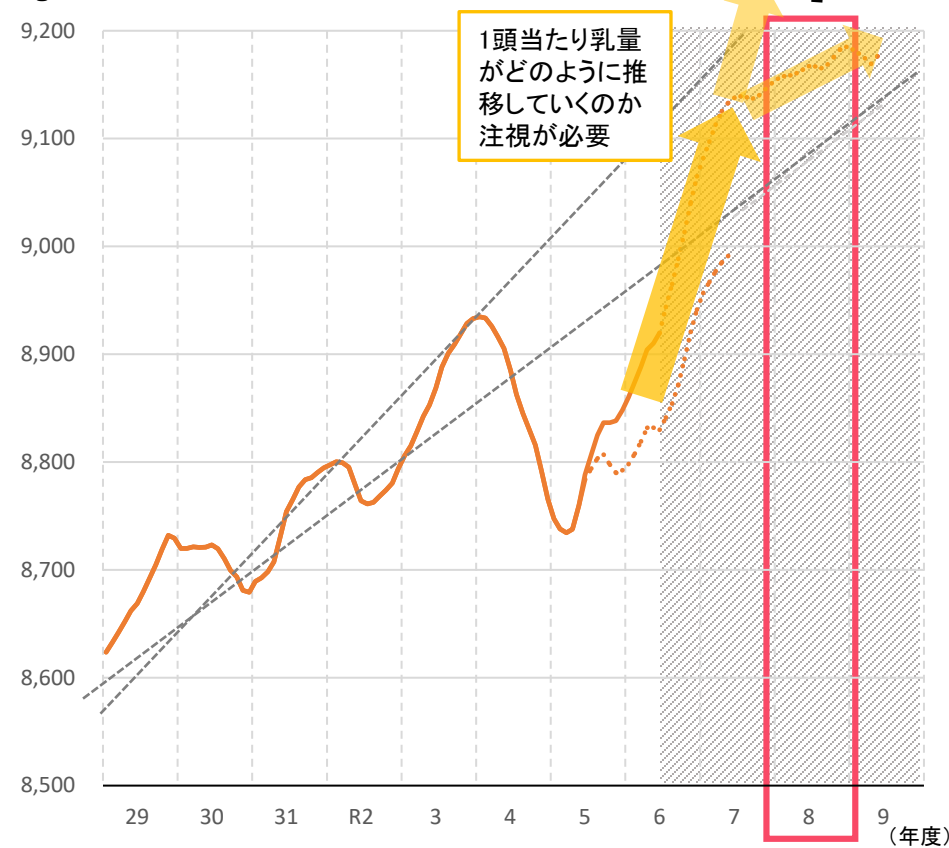
生乳生産の動向<R8年度>

<R8年度の動向を追う際の視点>

㊦ : R7年度よりも経産牛頭数の減少圧が小さい。

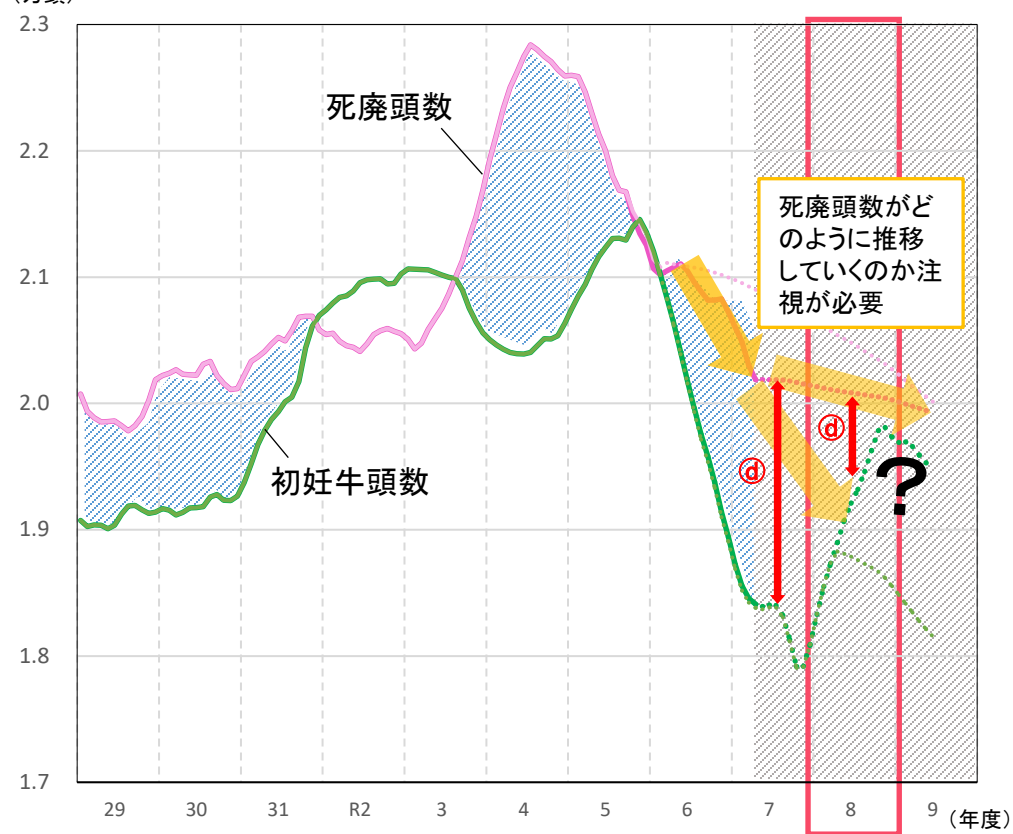
➡ : R8年1月時点ではR7年1月以降も続いている乳量の増加及び死廃率の減少という傾向に変化が見られていない。
 ただし、飼料の質や量、経済状況によって予測は変動する可能性があるため、R8春以降の1頭当たり乳量及び死廃頭数の動向に引き続き注視が必要。

○1頭当たりの乳量



参考：畜産統計、牛乳乳製品統計
 各月生乳生産量÷各月经産牛頭数の12カ月中心化移動累積値
 黒点線は年度の値。グレー点線は増殖目標の政策効果最大値及びすう勢値

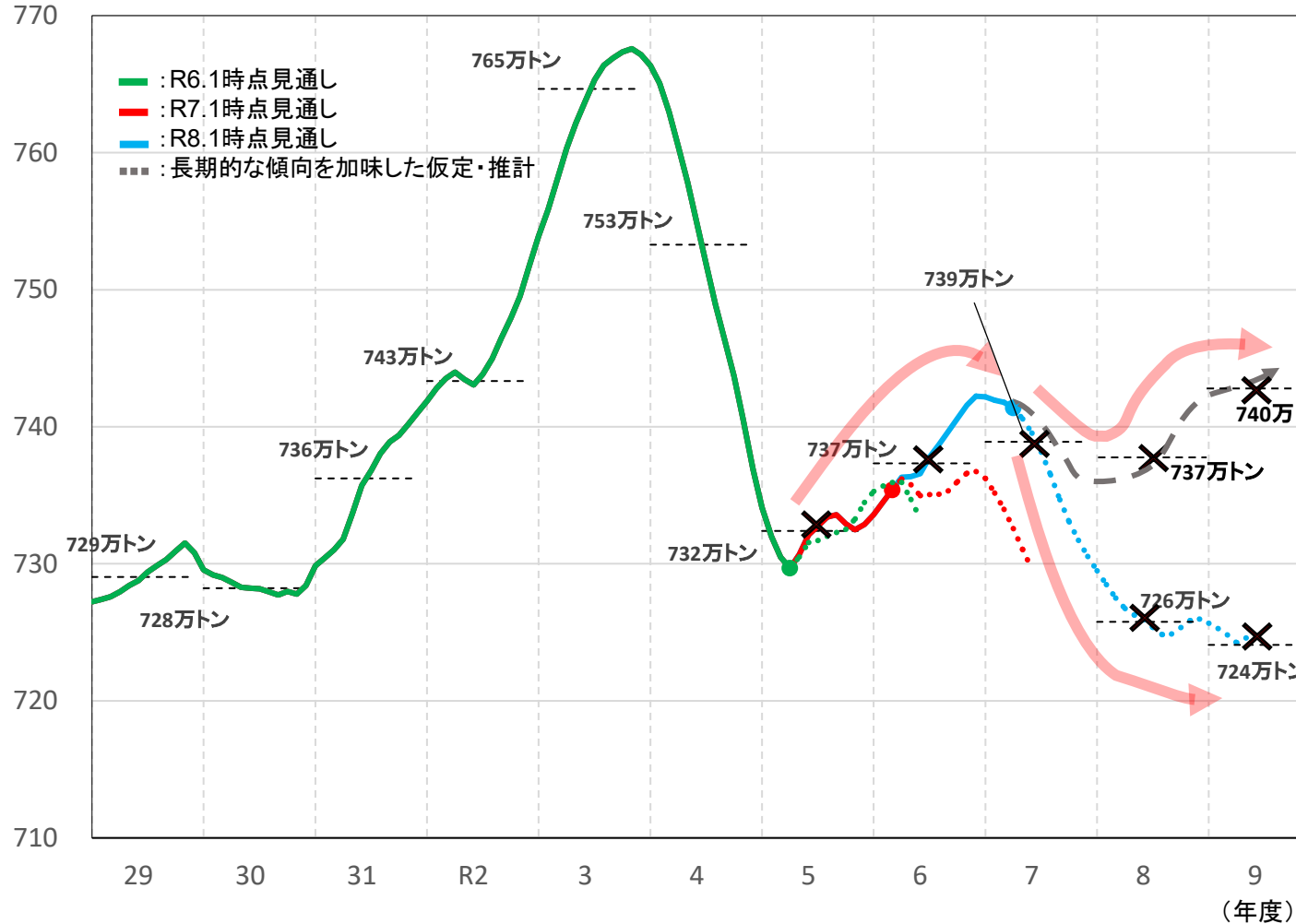
○初妊牛頭数及び死廃頭数



資料：牛个体識別全国データベース
 毎月の頭数の12カ月中心化移動平均値

生乳生産量見通し・推計

(万吨)



- R9年度の生産量には、720万吨台～740万吨超のバリエーションが予測できる
- R8年春以降の乳量・死廃がどのように推移していくのかにより、生産量がどちらに近い動きとなるのか注視していくことが必要

資料: 牛乳乳製品統計、業界見通し
 毎月の生乳生産量の12カ月中心化移動累積値
 黒点線は毎年度の累積値を示す

飲用需要の動向

令和4年度以降の飲用(成分無調整牛乳)需要減少の状況(価格弾力性)

- 牛乳の価格改訂後3ヶ月間の販売本数及び販売価格を前年と比較したところ、価格弾力性は0.3~0.6であり、価格変化に対して需要はあまり変動しない商品であると考えられる。
- 1度目の値上げよりも、2・3度目の値上げでの価格弾力性が下がっており、必需品としての牛乳の特性が強くなっている。

■ 飲用牛乳（成分無調整）の消費量及び価格の推移

○R3.11~R4.1⇒ R4.11~R5.1

| | |
|-------|-------|
| 本数比 | ▲4.8% |
| 価格比 | +8.4% |
| 価格弾力性 | +0.6 |
| 売上総額 | +3.1% |

○R4.8~R4.10⇒ R5.8~R5.10

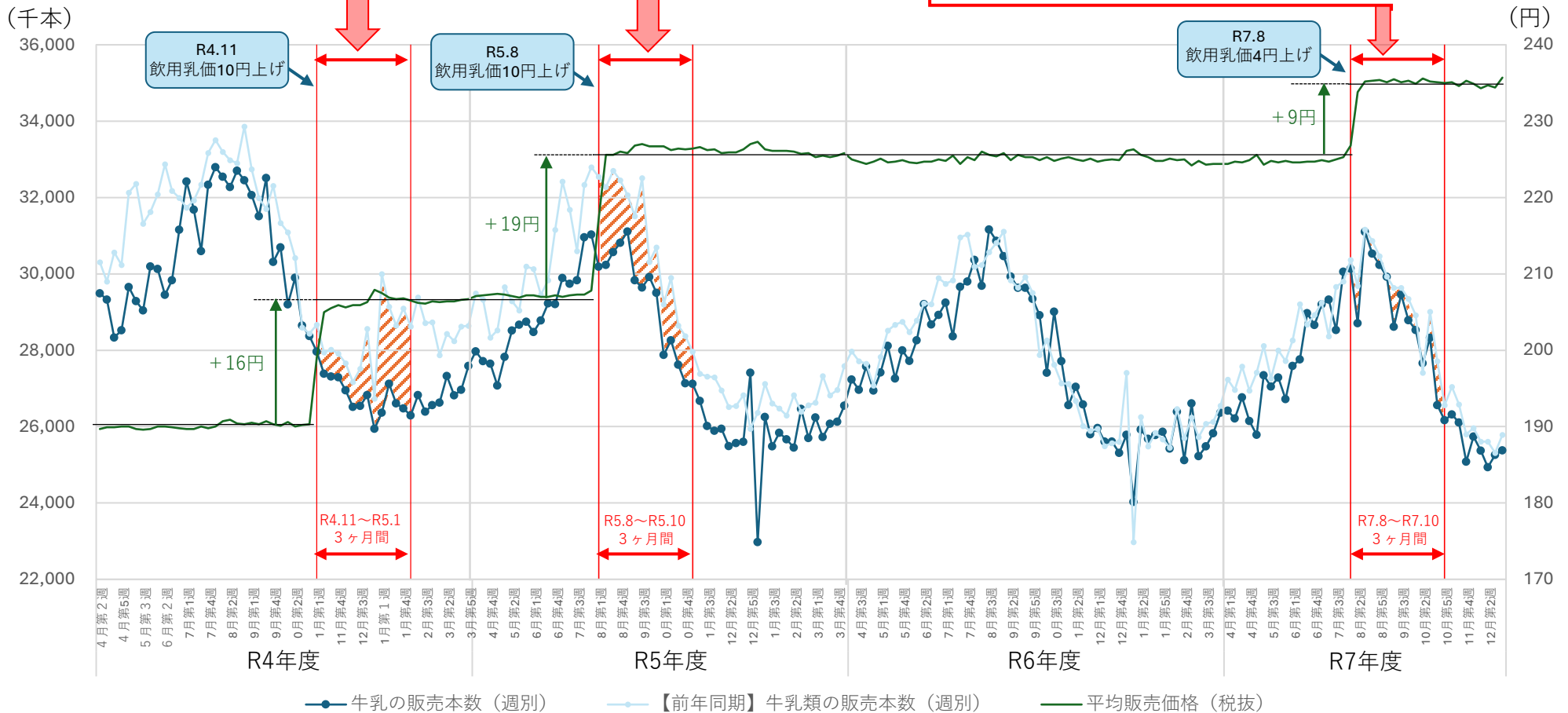
| | |
|-------|--------|
| 本数比 | ▲5.1% |
| 価格比 | +18.5% |
| 価格弾力性 | +0.3 |
| 売上総額 | +12.5% |

○R6.8~R7.10⇒ R7.8~R7.10

| | |
|-------|-------|
| 本数比 | ▲1.5% |
| 価格比 | +4.1% |
| 価格弾力性 | +0.4 |
| 売上総額 | +2.6% |

・ 価格弾力性について

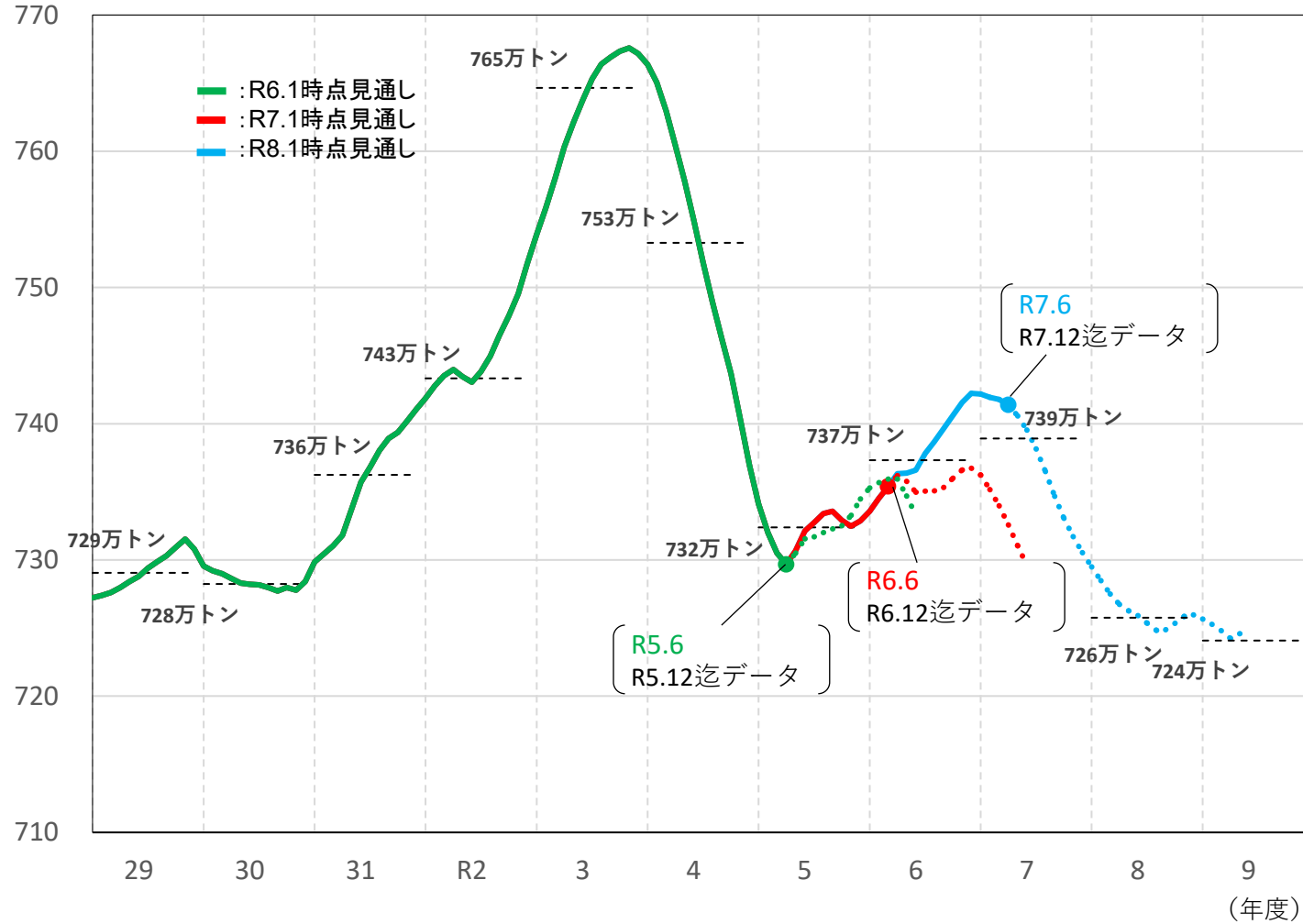
| 値 | 意味(需要の反応) | 価格を上げた場合 | 代表例 |
|-------|---------------------|-----------|----------|
| 1.0超 | 価格変化に対して需要が大きく反応する | 売上は減少しやすい | 高級品、嗜好品等 |
| 1.0 | 価格と需要が同じ割合で変化 | 売上は変わらない | |
| 1.0未満 | 価格変化に対して需要があまり変わらない | 売上は増加しやすい | 水、電気等 |



參考資料

生乳生産量見通し

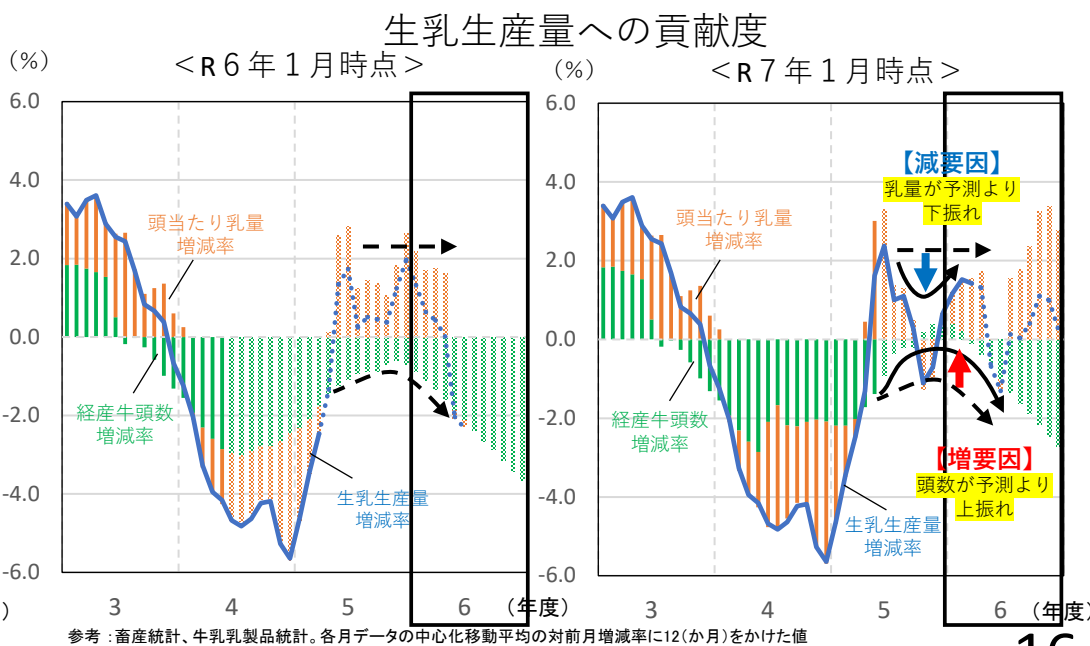
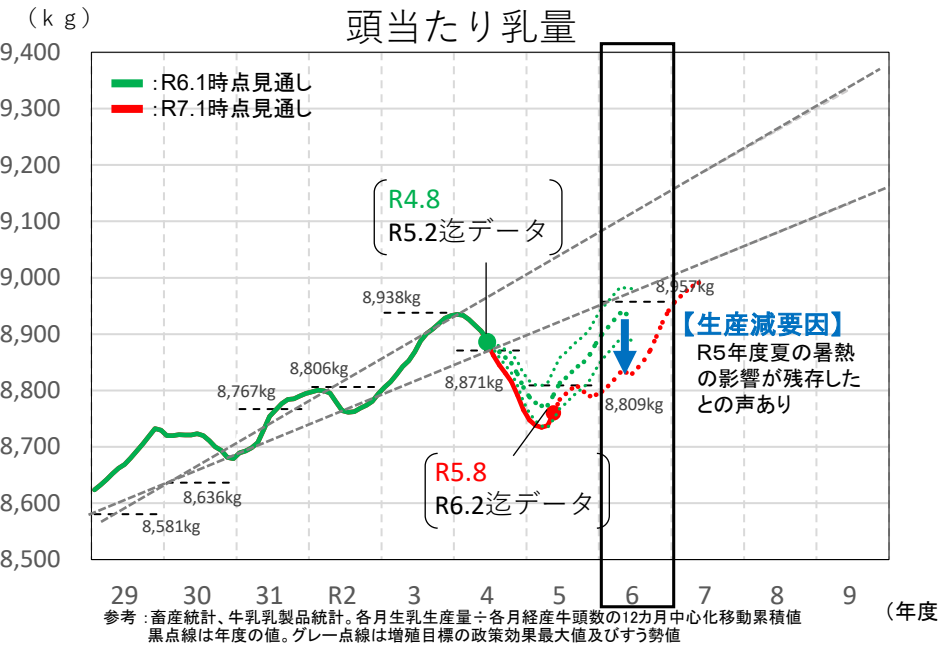
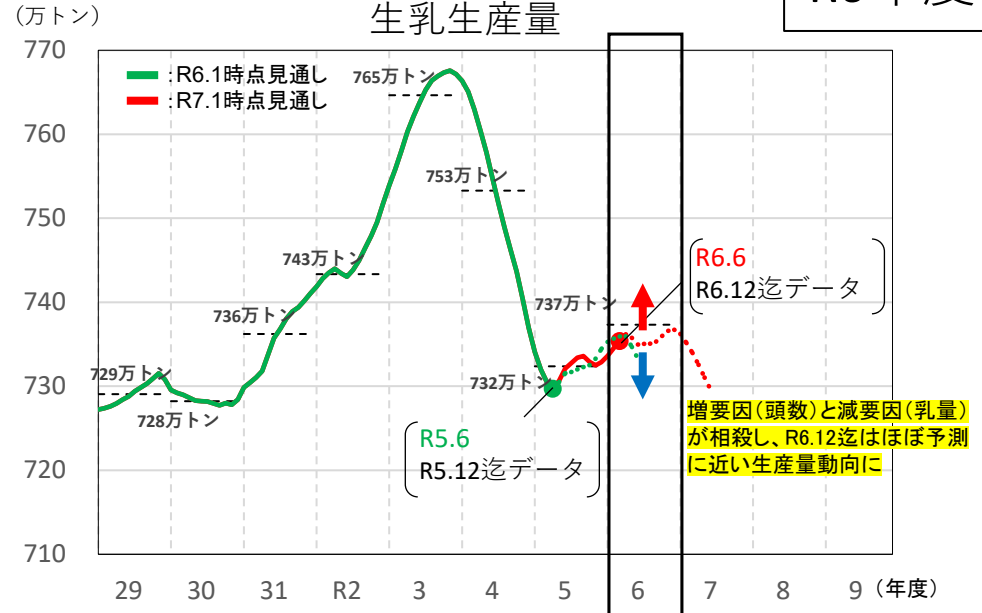
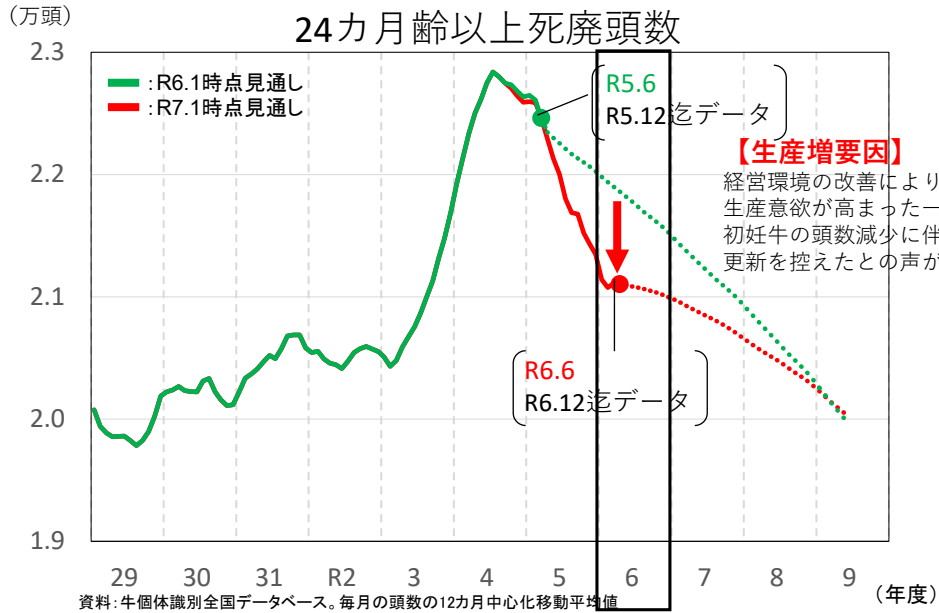
(万トン)



資料: 牛乳乳製品統計、業界見通し
 毎月の生乳生産量の12カ月中心化移動累積値
 黒点線は毎年度の累積値を示す

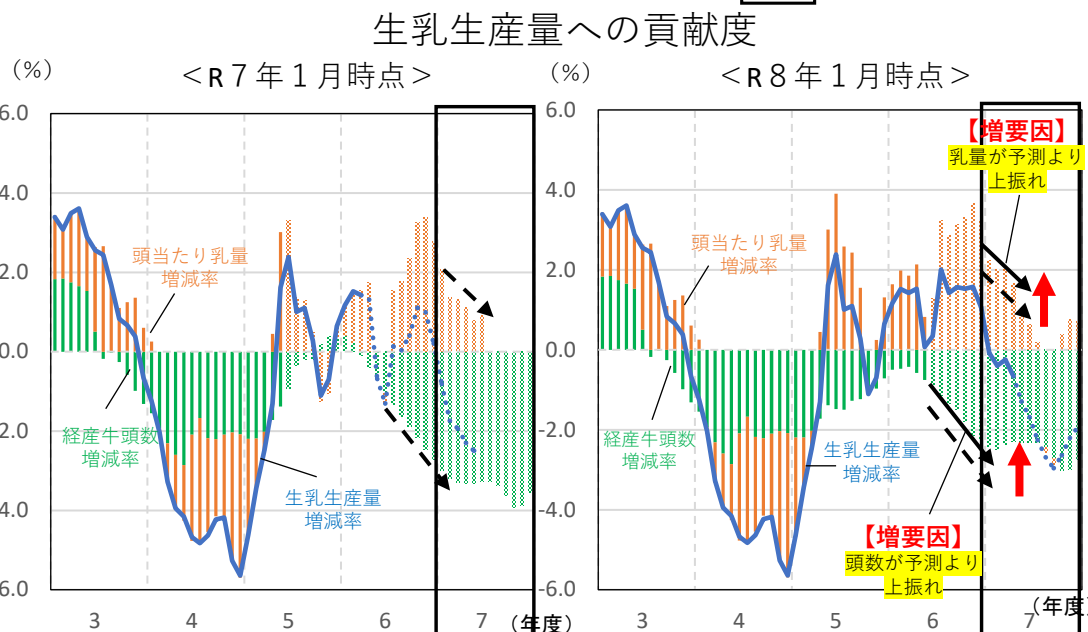
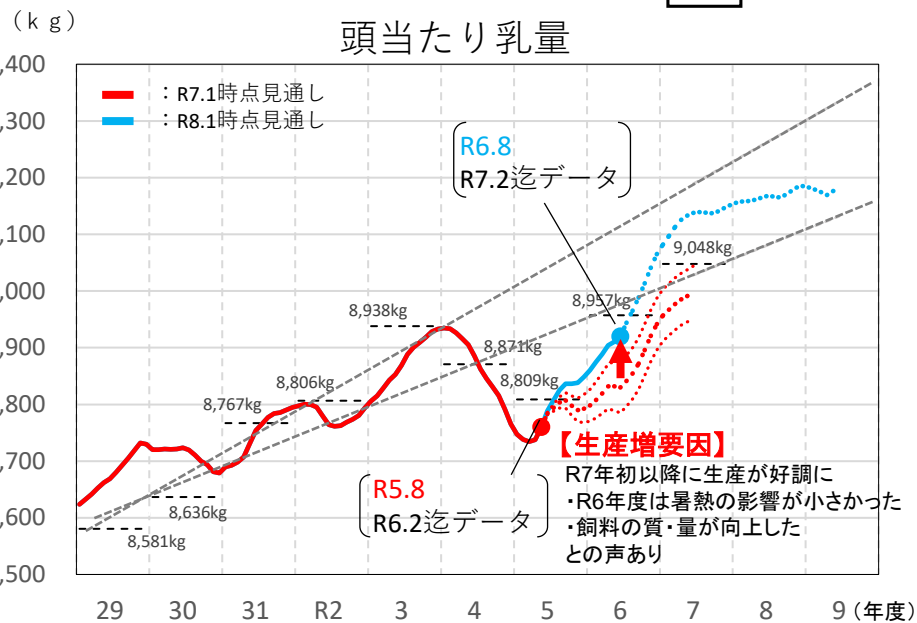
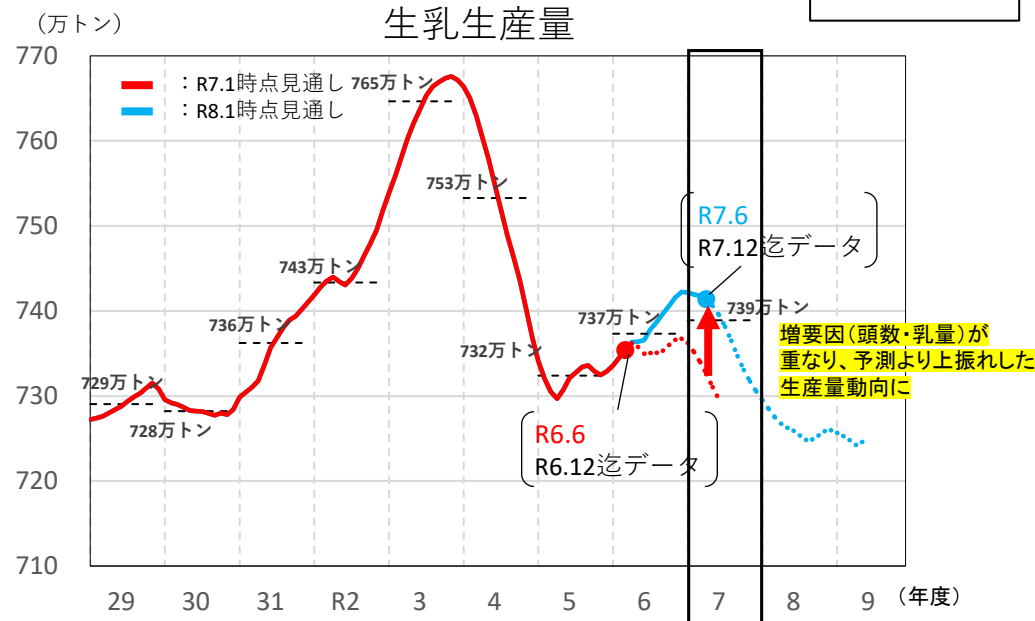
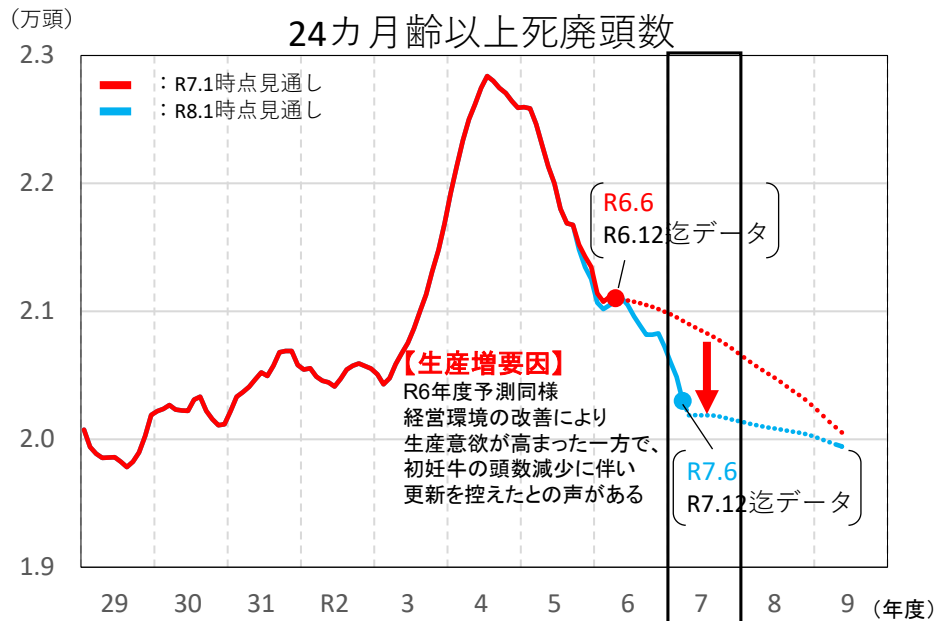
R6年1月時点見通し ⇒ R7年1月時点見通し

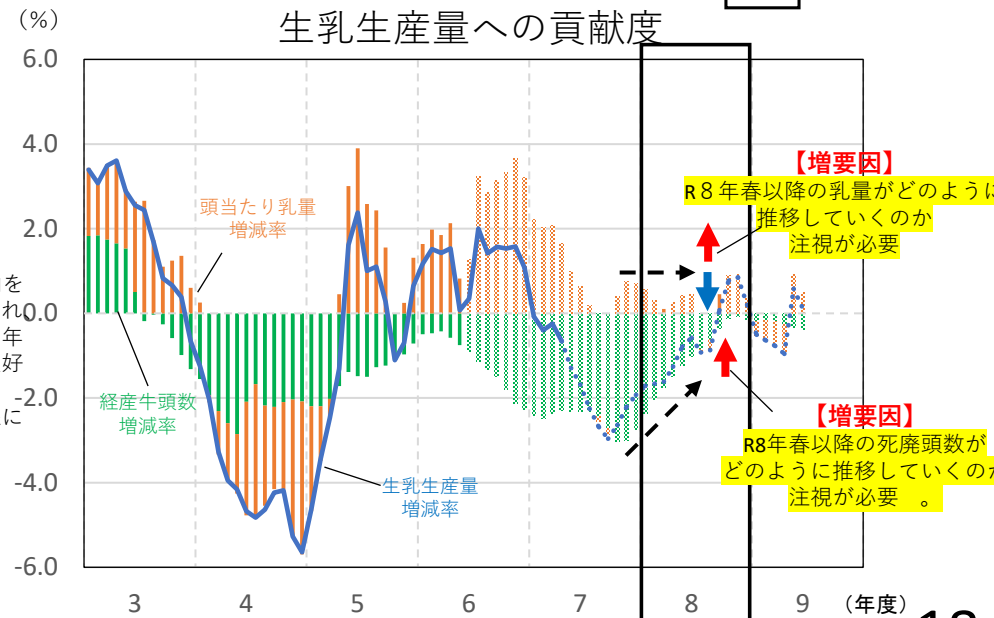
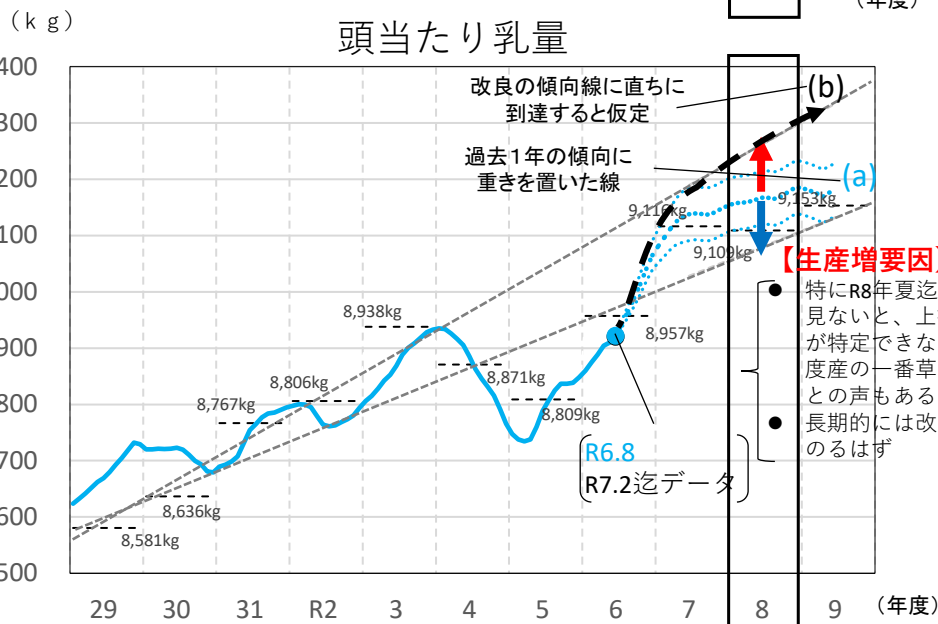
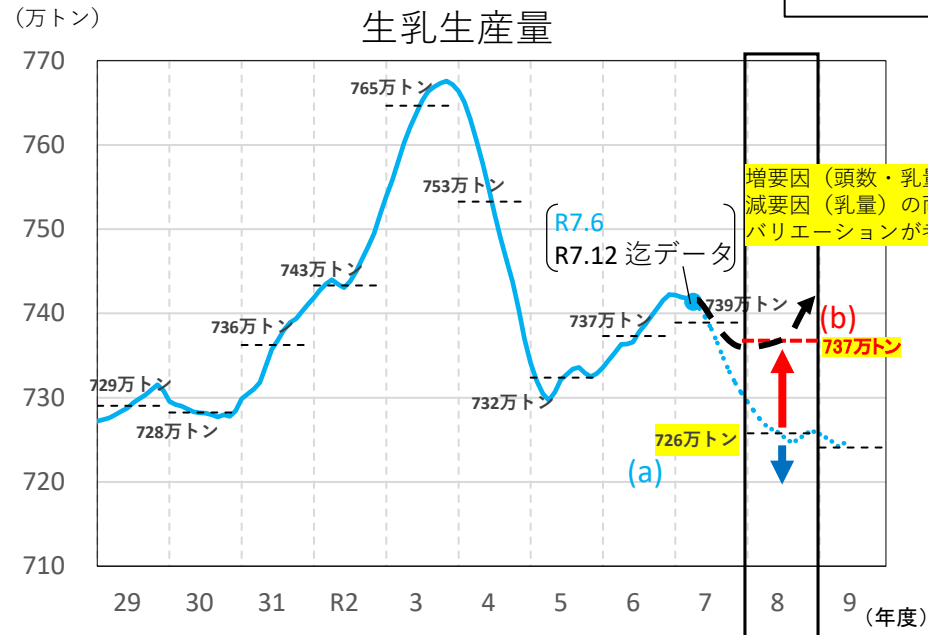
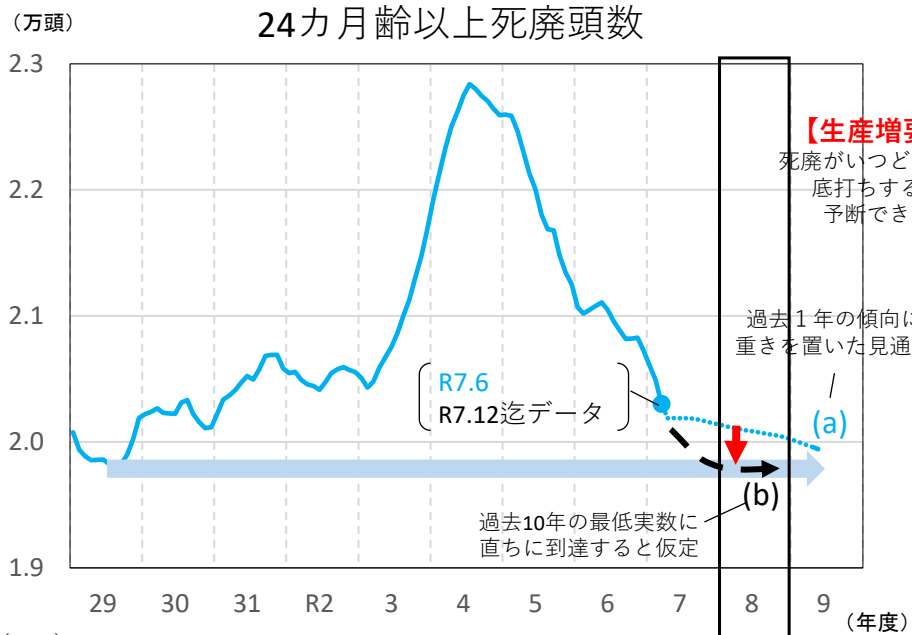
R6年度



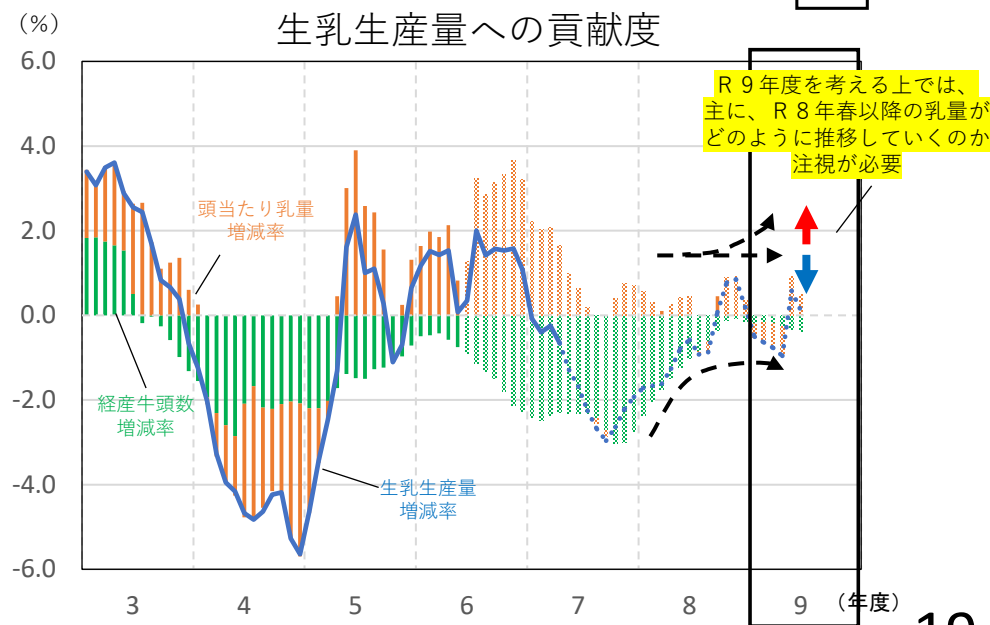
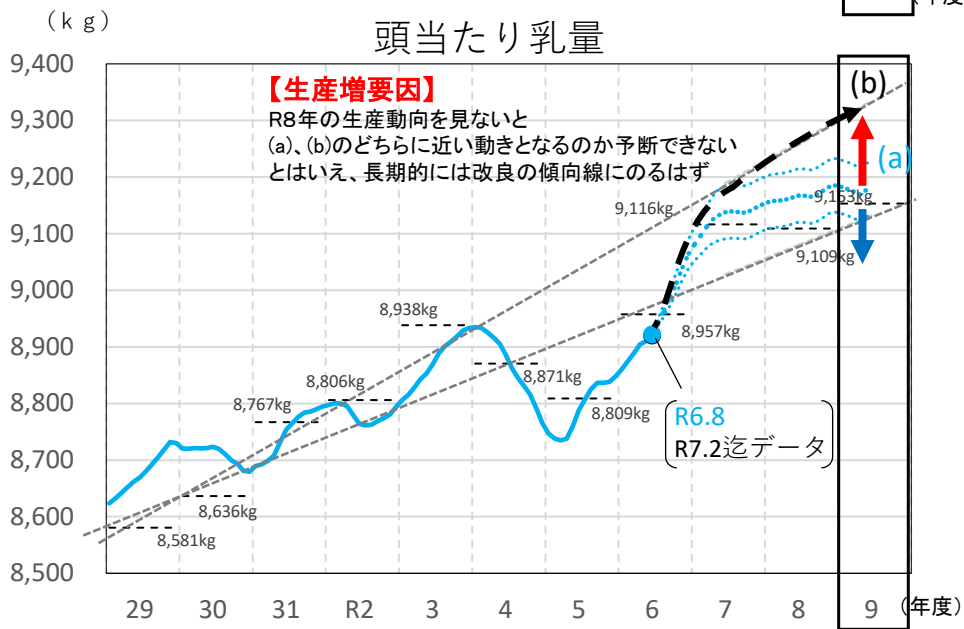
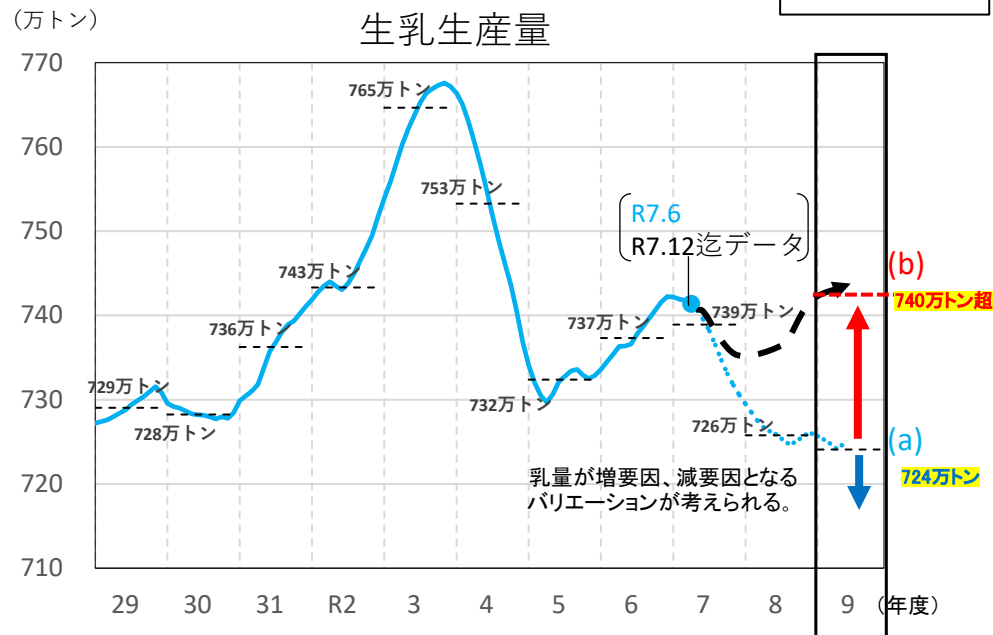
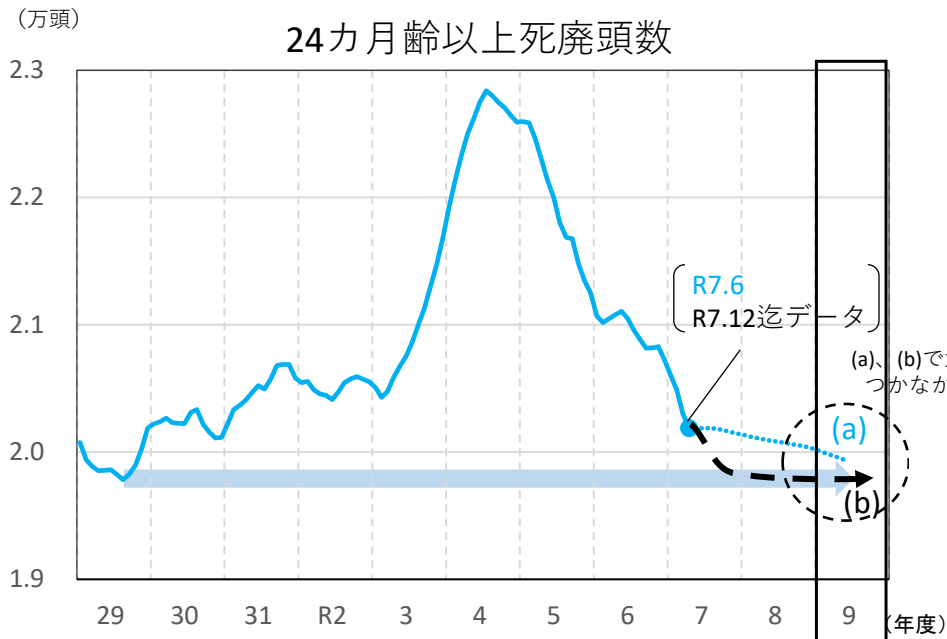
R7年1月時点見通し ⇒ R8年1月時点見通し

R7年度



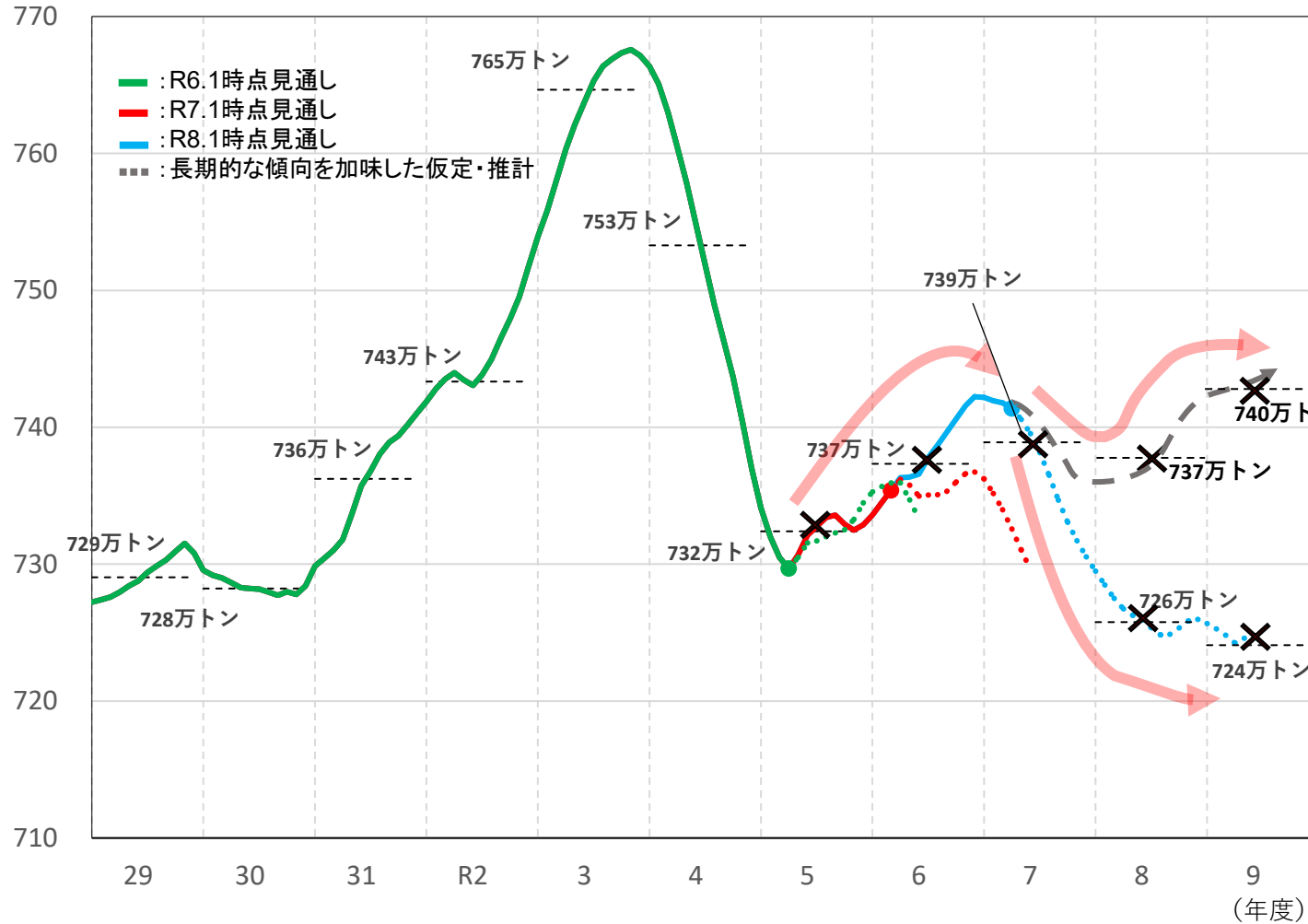


R9年度



生乳生産量見通し・推計

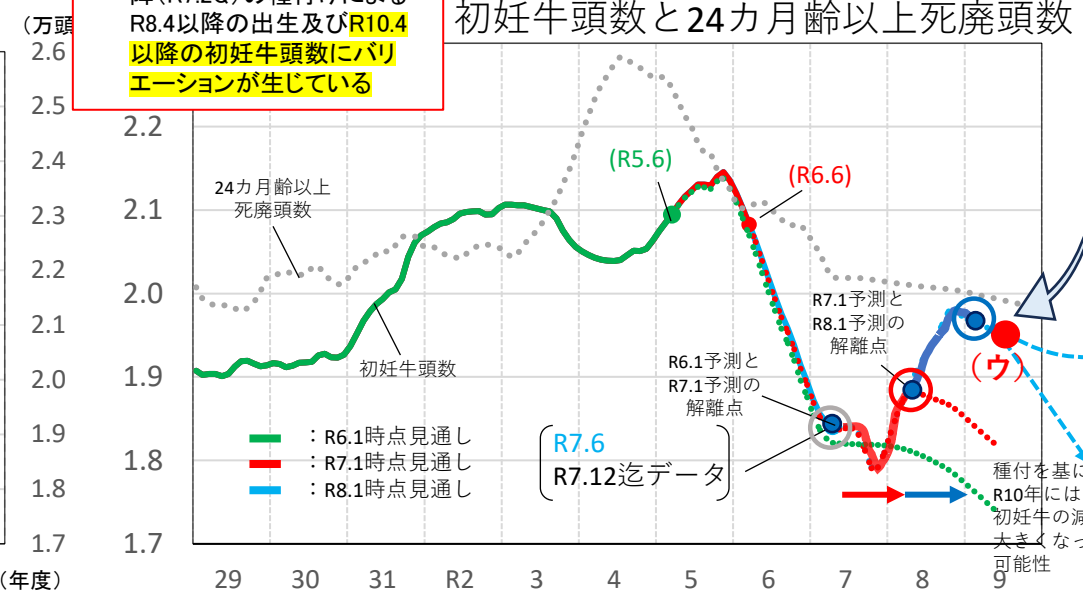
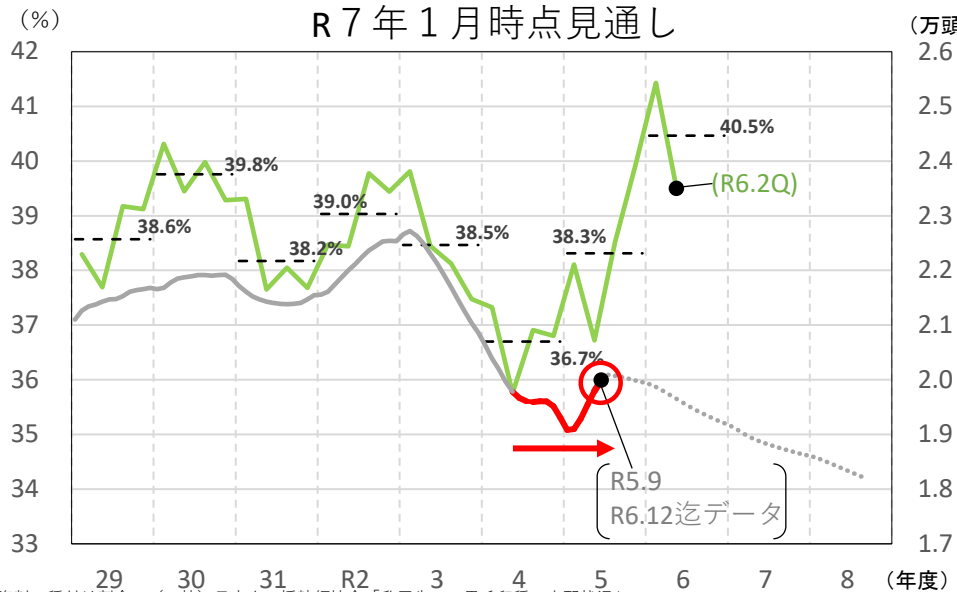
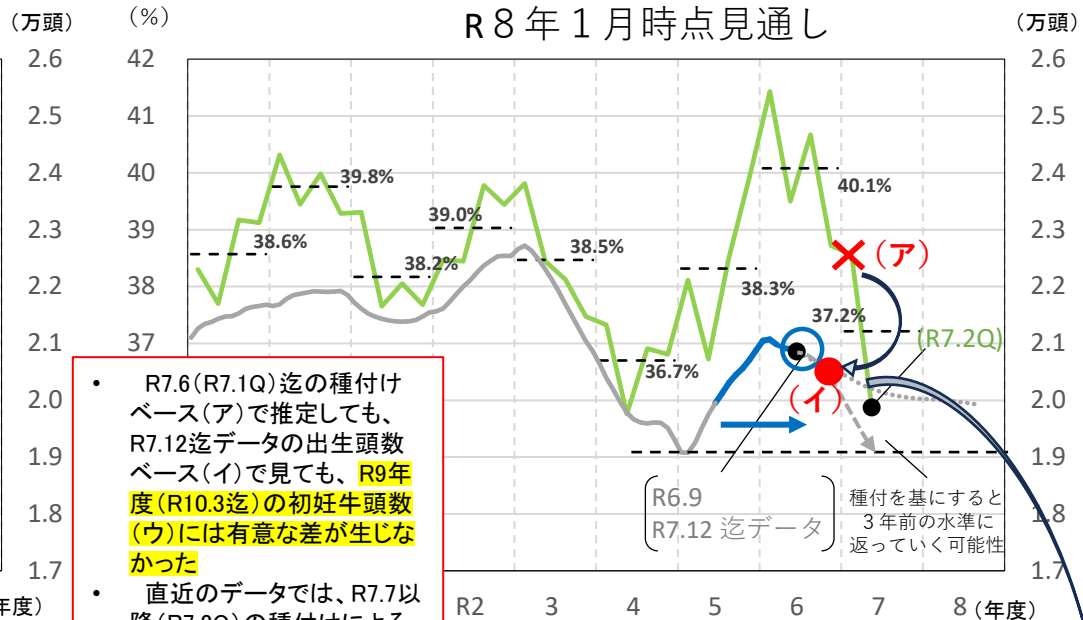
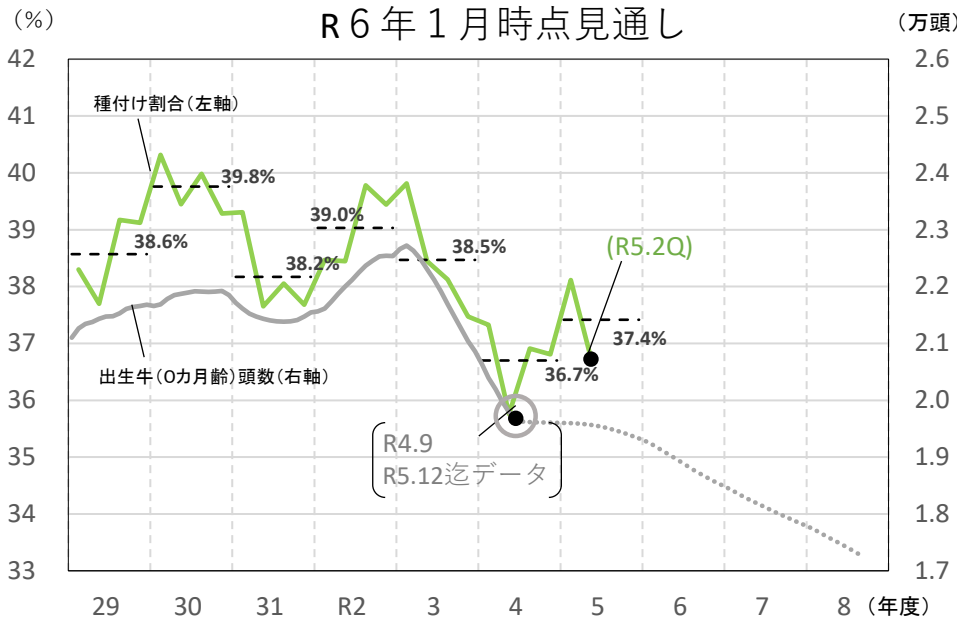
(万トン)



- R9年度の生産量には、720万トン台～740万トン超のバリエーションが予測できる
- R8年春以降の乳量・死廃がどのように推移していくのかにより、生産量がどちらに近い動きとなるのか注視していくことが必要

資料: 牛乳乳製品統計、業界見通し
 毎月の生乳生産量の12カ月中心化移動累積値
 黒点線は毎年度の累積値を示す

参考:出生頭数・初妊牛頭数



資料:種付け割合:(一社)日本人工授精師協会「乳用牛への黒毛和種の交配状況」
出生牛頭数:牛個体識別全国データベース。毎月の頭数の12カ月中心化移動平均値を、種付け時期に合わせて3四半期前にずらした。

資料:牛個体識別全国データベース。毎月の頭数の12カ月中心化移動平均値

生乳取扱量の見通し（令和7年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| Jミルク予測（生乳生産量） | 645 | 663 | 628 | 614 | 604 | 580 | 604 | 586 | 616 | 624 | 575 | 649 | 7,389 |
| （対前年同月比） | (101.5%) | (101.2%) | (101.9%) | (101.2%) | (102.0%) | (100.2%) | (99.7%) | (99.5%) | (100.0%) | (98.7%) | (98.6%) | (98.1%) | (100.2%) |
| うち北海道 | 366 | 379 | 366 | 363 | 362 | 346 | 353 | 340 | 358 | 362 | 333 | 374 | 4,303 |
| （対前年同月比） | (102.9%) | (102.2%) | (103.8%) | (102.1%) | (102.8%) | (100.6%) | (99.8%) | (99.7%) | (100.3%) | (99.2%) | (99.0%) | (98.5%) | (100.9%) |
| うち都府県 | 279 | 284 | 262 | 251 | 242 | 234 | 251 | 246 | 258 | 262 | 242 | 275 | 3,086 |
| （対前年同月比） | (99.7%) | (99.8%) | (99.3%) | (99.9%) | (101.0%) | (99.5%) | (99.5%) | (99.3%) | (99.6%) | (98.2%) | (98.1%) | (97.5%) | (99.3%) |
| 会議メンバー | 629 | 650 | 616 | 602 | 591 | 569 | 590 | 573 | 602 | 613 | 563 | 635 | 7,232 |
| （対前年同月比） | (102.7%) | (102.3%) | (101.7%) | (99.9%) | (102.7%) | (101.6%) | (101.3%) | (101.4%) | (101.6%) | (101.0%) | (97.2%) | (100.9%) | (101.2%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (+1.1) | (+1.1) | (▲0.2) | (▲1.4) | (+0.7) | (+1.4) | (+1.6) | (+1.9) | (+1.6) | (+2.2) | (+1.4) | (+2.8) | (+1.0) |
| うち北海道 | 364 | 378 | 366 | 363 | 362 | 346 | 351 | 338 | 356 | 362 | 332 | 371 | 4,289 |
| （対前年同月比） | (105.2%) | (104.3%) | (103.8%) | (102.3%) | (106.5%) | (105.3%) | (104.1%) | (103.8%) | (104.3%) | (103.8%) | (100.3%) | (103.5%) | (103.9%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (+2.3) | (+2.0) | (0.0) | (+0.2) | (+3.7) | (+4.6) | (+4.3) | (+4.1) | (+4.1) | (+4.6) | (+1.3) | (+5.0) | (+3.0) |
| うち都府県 | 265 | 271 | 250 | 239 | 230 | 223 | 239 | 234 | 246 | 251 | 231 | 264 | 2,944 |
| （対前年同月比） | (99.3%) | (99.7%) | (98.7%) | (96.3%) | (97.2%) | (96.4%) | (97.4%) | (98.1%) | (97.8%) | (97.2%) | (93.0%) | (97.5%) | (97.4%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲0.4) | (▲0.1) | (▲0.6) | (▲3.6) | (▲3.7) | (▲3.1) | (▲2.0) | (▲1.2) | (▲1.8) | (▲1.0) | (▲5.5) | (0.0) | (▲1.8) |
| （参考）牛乳乳製品統計 | 645 | 663 | 628 | 614 | 604 | 580 | 604 | 586 | 616 | 625 | - | - | - |

（参考）Jミルク予測：2025年度、2026年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2026年1月30日公表）

※ 灰色塗りつぶしセルは実績

※ 会議メンバーと国内生乳生産量との差（約16万トン）は、この会議に参加していない系統外事業者（全国の数%）、自家消費（約4万トン）等

牛乳等仕向け量の見通し（令和7年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---------------------------|----------|---------|----------|----------|----------|----------|---------|---------|---------|----------|----------|---------|---------|
| Jミルク予測 | 311 | 328 | 328 | 331 | 311 | 331 | 332 | 308 | 301 | 303 | 287 | 306 | 3,776 |
| （対前年同月比） | (100.1%) | (99.7%) | (99.0%) | (101.6%) | (98.5%) | (99.9%) | (97.6%) | (96.6%) | (98.9%) | (97.3%) | (98.0%) | (98.7%) | (98.8%) |
| うち北海道 | 44 | 45 | 46 | 50 | 48 | 47 | 48 | 45 | 44 | 45 | 43 | 45 | 549 |
| （対前年同月比） | (97.0%) | (98.8%) | (101.5%) | (105.7%) | (100.7%) | (98.4%) | (99.2%) | (95.5%) | (98.5%) | (99.4%) | (100.3%) | (98.3%) | (99.4%) |
| うち都府県 | 268 | 283 | 282 | 281 | 263 | 284 | 283 | 263 | 257 | 258 | 244 | 262 | 3,228 |
| （対前年同月比） | (100.6%) | (99.8%) | (98.6%) | (100.9%) | (98.1%) | (100.2%) | (97.4%) | (96.8%) | (99.0%) | (96.9%) | (97.6%) | (98.8%) | (98.7%) |
| 会議メンバー | 305 | 323 | 324 | 328 | 307 | 326 | 325 | 302 | 293 | 305 | 284 | 300 | 3,721 |
| （対前年同月比） | (99.6%) | (99.4%) | (99.0%) | (102.4%) | (98.3%) | (99.9%) | (97.8%) | (96.5%) | (98.9%) | (99.8%) | (98.7%) | (99.3%) | (99.1%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲0.5) | (▲0.3) | (▲0.1) | (+0.9) | (▲0.2) | (0.0) | (+0.1) | (▲0.1) | (+0.1) | (+2.5) | (+0.8) | (+0.6) | (+0.3) |
| うち北海道 | 45 | 46 | 47 | 52 | 49 | 49 | 49 | 45 | 44 | 47 | 43 | 45 | 560 |
| （対前年同月比） | (98.0%) | (98.1%) | (101.3%) | (106.1%) | (101.5%) | (99.1%) | (99.4%) | (95.8%) | (98.3%) | (102.0%) | (98.6%) | (99.6%) | (99.8%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (+0.9) | (▲0.6) | (▲0.2) | (+0.4) | (+0.7) | (+0.7) | (+0.2) | (+0.3) | (▲0.2) | (+2.6) | (▲1.7) | (+1.4) | (+0.4) |
| うち都府県 | 260 | 277 | 277 | 276 | 258 | 277 | 276 | 256 | 249 | 258 | 241 | 254 | 3,161 |
| （対前年同月比） | (99.9%) | (99.6%) | (98.6%) | (101.8%) | (97.8%) | (100.0%) | (97.5%) | (96.7%) | (99.1%) | (99.4%) | (98.8%) | (99.2%) | (99.0%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲0.7) | (▲0.2) | (▲0.1) | (+0.9) | (▲0.3) | (▲0.2) | (+0.1) | (▲0.2) | (+0.1) | (+2.5) | (+1.2) | (+0.4) | (+0.3) |
| （参考）牛乳乳製品統計 （牛乳等向け処理量） | 311.3 | 328.5 | 327.8 | 331.2 | 310.6 | 331.1 | 331.5 | 308.0 | 301 | 309 | - | - | - |
| うち北海道 | 44 | 45 | 46 | 50 | 48 | 47 | 48 | 45 | 44 | 46 | - | - | - |
| うち都府県 | 268 | 283 | 282 | 281 | 263 | 284 | 283 | 263 | 257 | 263 | - | - | - |

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----------------------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| Jミルク予測 | | | | | | | | | | | | | |
| 道外移出量 | 36 | 40 | 46 | 52 | 50 | 65 | 53 | 39 | 37 | 39 | 35 | 37 | 530 |
| （対前年同月比） | (109.0%) | (104.6%) | (102.0%) | (101.7%) | (96.5%) | (102.4%) | (92.2%) | (89.4%) | (97.6%) | (98.9%) | (99.2%) | (110.1%) | (99.8%) |
| 会議メンバー | | | | | | | | | | | | | |
| 道外移出量 | 36 | 41 | 48 | 53 | 52 | 64 | 52 | 40 | 37 | 40 | 36 | 34 | 531 |
| （対前年同月比） | (105.6%) | (107.6%) | (103.9%) | (107.9%) | (97.9%) | (102.8%) | (95.2%) | (92.6%) | (100.0%) | (103.6%) | (105.1%) | (106.2%) | (102.0%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲3.4) | (+3.0) | (+1.9) | (+6.2) | (+1.4) | (+0.4) | (+2.9) | (+3.2) | (+2.4) | (+4.6) | (+5.9) | (▲3.9) | (+2.2) |
| （参考）牛乳乳製品統計 道外移出量 | 36 | 40 | 46 | 52 | 50 | 65 | 53 | 39 | 37 | 38 | - | - | - |

（参考）Jミルク予測：2025年度、2026年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2026年1月30日公表）

※ 灰色塗りつぶしセルは実績

※ 牛乳等仕向けとは、牛乳（殺菌乳含む）、成分調整牛乳、加工乳、乳飲料、発酵乳及び乳酸菌飲料に仕向けているものを指す。生乳取扱量のうち、これに該当しないものは概ね認定数量に相当するものと推定。

※ 北海道と都府県の区分は消費地でカウント。道内産地パックを道外移出した場合は、都府県でカウントしている。

生乳取扱量の見通し（令和8年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|----------|---------|
| Jミルク予測（生乳生産量） | 630 | 645 | 610 | 600 | 591 | 570 | 594 | 576 | 606 | 619 | 571 | 646 | 7,258 |
| （対前年同月比） | (97.7%) | (97.3%) | (97.1%) | (97.7%) | (97.8%) | (98.2%) | (98.3%) | (98.3%) | (98.4%) | (99.1%) | (99.3%) | (99.5%) | (98.2%) |
| うち北海道 | 360 | 373 | 358 | 360 | 358 | 344 | 351 | 338 | 357 | 364 | 335 | 376 | 4,274 |
| （対前年同月比） | (98.5%) | (98.3%) | (97.9%) | (99.0%) | (98.8%) | (99.3%) | (99.4%) | (99.5%) | (99.7%) | (100.4%) | (100.5%) | (100.7%) | (99.3%) |
| うち都府県 | 269 | 273 | 252 | 240 | 233 | 226 | 242 | 238 | 249 | 255 | 236 | 269 | 2,984 |
| （対前年同月比） | (96.6%) | (96.0%) | (96.0%) | (95.8%) | (96.4%) | (96.6%) | (96.7%) | (96.7%) | (96.6%) | (97.3%) | (97.6%) | (97.9%) | (96.7%) |
| 会議メンバー | 617 | 634 | 599 | 592 | 582 | 561 | 584 | 568 | 598 | 609 | 561 | 634 | 7,140 |
| （対前年同月比） | (98.1%) | (97.5%) | (97.4%) | (98.3%) | (98.4%) | (98.6%) | (99.0%) | (99.2%) | (99.3%) | (99.5%) | (99.6%) | (99.8%) | (98.7%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (+0.5) | (+0.3) | (+0.3) | (+0.6) | (+0.6) | (+0.4) | (+0.7) | (+0.9) | (+0.8) | (+0.4) | (+0.3) | (+0.3) | (+0.5) |
| うち北海道 | 357 | 369 | 354 | 356 | 354 | 340 | 348 | 336 | 354 | 361 | 331 | 372 | 4,232 |
| （対前年同月比） | (98.0%) | (97.5%) | (96.8%) | (98.2%) | (97.9%) | (98.3%) | (99.2%) | (99.2%) | (99.4%) | (99.7%) | (99.8%) | (100.2%) | (98.7%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲0.5) | (▲0.8) | (▲1.0) | (▲0.9) | (▲0.9) | (▲1.0) | (▲0.2) | (▲0.3) | (▲0.3) | (▲0.7) | (▲0.7) | (▲0.5) | (▲0.7) |
| うち都府県 | 261 | 265 | 245 | 236 | 228 | 221 | 236 | 233 | 244 | 249 | 230 | 262 | 2,908 |
| （対前年同月比） | (98.3%) | (97.7%) | (98.2%) | (98.6%) | (99.3%) | (99.1%) | (98.8%) | (99.3%) | (99.1%) | (99.1%) | (99.3%) | (99.2%) | (98.8%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (+1.7) | (+1.7) | (+2.3) | (+2.7) | (+2.9) | (+2.5) | (+2.1) | (+2.6) | (+2.4) | (+1.8) | (+1.6) | (+1.3) | (+2.1) |

（参考）Jミルク予測：2025年度、2026年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2026年1月30日公表）

※ 会議メンバーと国内生乳生産量との差（約16万トン）は、この会議に参加していない系統外事業者（全国の数%）、自家消費（約4万トン）等

牛乳等仕向け量の見通し（令和8年度）

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----------------|---------|---------|----------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|---------|
| Jミルク予測 | 306 | 322 | 324 | 325 | 308 | 327 | 332 | 307 | 297 | 300 | 285 | 305 | 3,737 |
| （対前年同月比） | (98.2%) | (98.1%) | (98.9%) | (98.1%) | (99.1%) | (98.8%) | (100.0%) | (99.7%) | (98.8%) | (99.1%) | (99.2%) | (99.4%) | (99.0%) |
| うち北海道 | 42 | 44 | 46 | 51 | 48 | 46 | 49 | 44 | 43 | 45 | 43 | 44 | 546 |
| （対前年同月比） | (95.2%) | (97.2%) | (101.4%) | (102.2%) | (101.3%) | (97.3%) | (101.6%) | (98.5%) | (98.3%) | (101.3%) | (101.5%) | (99.0%) | (99.6%) |
| うち都府県 | 264 | 278 | 278 | 274 | 260 | 281 | 283 | 263 | 254 | 255 | 241 | 260 | 3,190 |
| （対前年同月比） | (98.7%) | (98.3%) | (98.5%) | (97.4%) | (98.7%) | (99.1%) | (99.8%) | (99.9%) | (98.8%) | (98.8%) | (98.8%) | (99.5%) | (98.8%) |
| 会議メンバー | 294 | 313 | 319 | 323 | 303 | 319 | 323 | 299 | 288 | 301 | 280 | 294 | 3,657 |
| （対前年同月比） | (96.7%) | (97.0%) | (98.3%) | (98.6%) | (98.7%) | (97.9%) | (99.3%) | (99.1%) | (98.4%) | (98.8%) | (98.8%) | (98.1%) | (98.3%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲1.5) | (▲1.2) | (▲0.6) | (+0.5) | (▲0.4) | (▲0.9) | (▲0.7) | (▲0.7) | (▲0.4) | (▲0.3) | (▲0.4) | (▲1.3) | (▲0.7) |
| うち北海道 | 41 | 42 | 45 | 51 | 48 | 43 | 46 | 40 | 40 | 47 | 42 | 43 | 529 |
| （対前年同月比） | (90.9%) | (92.2%) | (96.6%) | (99.7%) | (98.7%) | (88.2%) | (93.6%) | (89.0%) | (90.9%) | (99.9%) | (99.7%) | (94.9%) | (94.6%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲4.3) | (▲5.0) | (▲4.8) | (▲2.4) | (▲2.6) | (▲9.2) | (▲8.0) | (▲9.5) | (▲7.5) | (▲1.4) | (▲1.9) | (▲4.1) | (▲5.0) |
| うち都府県 | 254 | 271 | 274 | 272 | 255 | 276 | 277 | 259 | 249 | 254 | 238 | 251 | 3,128 |
| （対前年同月比） | (97.7%) | (97.7%) | (98.6%) | (98.4%) | (98.7%) | (99.6%) | (100.3%) | (100.8%) | (99.7%) | (98.6%) | (98.7%) | (98.6%) | (99.0%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲1.0) | (▲0.5) | (+0.1) | (+1.0) | (0.0) | (+0.6) | (+0.6) | (+0.9) | (+0.9) | (▲0.2) | (▲0.1) | (▲0.8) | (+0.1) |

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| Jミルク予測 | | | | | | | | | | | | | |
| 道外移出量 | 39 | 44 | 51 | 55 | 53 | 70 | 60 | 47 | 44 | 41 | 38 | 42 | 584 |
| （対前年同月比） | (110.0%) | (109.2%) | (109.8%) | (106.0%) | (105.4%) | (108.0%) | (113.6%) | (120.3%) | (116.8%) | (104.4%) | (107.2%) | (112.9%) | (110.1%) |
| 会議メンバー | | | | | | | | | | | | | |
| うち道外移出量 | 35 | 41 | 48 | 52 | 50 | 64 | 54 | 42 | 38 | 39 | 34 | 32 | 529 |
| （対前年同月比） | (97.9%) | (99.1%) | (99.9%) | (98.8%) | (97.4%) | (100.4%) | (103.6%) | (104.8%) | (103.9%) | (97.1%) | (95.7%) | (95.9%) | (99.7%) |
| （Jミルク予測との差%pt） | (▲12.1) | (▲10.1) | (▲9.9) | (▲7.2) | (▲8.0) | (▲7.6) | (▲10.0) | (▲15.5) | (▲12.8) | (▲7.3) | (▲11.5) | (▲17.0) | (▲10.4) |

（参考）Jミルク予測：2025年度、2026年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと課題について（2026年1月30日公表）

※ 牛乳等仕向けとは、牛乳（殺菌乳含む）、成分調整牛乳、加工乳、乳飲料、発酵乳及び乳酸菌飲料に仕向けているものを指す。生乳取扱量のうち、これに該当しないものは概ね認定数量に相当するものと推定。

※ 北海道と都府県の区分は消費地でカウント。道内産地パックを道外移出した場合は、都府県でカウントしている。